Canon

EOS 50D

Canon EOS 50D 使用説明書 J

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS 50D は、有効画素数約 1510 万画素・高精細CMOS センサー、DIGIC 4、高精度・高速9点AF（全点クロス測距）、約6.3コマ/秒・高速連続撮影、ライブビュー撮影機能を搭載した、高性能デジタル一眼レフカメラです。

本機は、いつでもすぐに撮影できる優れた機動性、高度な撮影に最適対応する豊富な撮影機能、撮影領域をさらに拡大する幅広いシステム拡張性など、さまざまな特長を備えています。

撮影しながら操作すると理解が深まります

デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（12、13ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

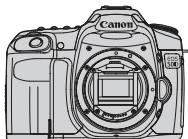
著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

CFカードについて

本書では、CFカードのことを「カード」と表記しています。なお、画像を記録する**CFカードは付属していません**。別途ご購入ください。

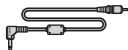
カメラと主な付属品

ご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ
（アイカップ、
ボディキャップ付き）

電池
バッテリーパック
BP-511A
（保護カバー付き）

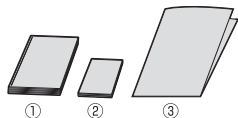
充電器
バッテリーチャージャー
CG-580

ワイドストラップ
EW-EOS50D

インターフェースケーブル
IFC-200U

ビデオケーブル

EOS DIGITAL
Solution Disk
（ソフトウェア）

ソフトウェア
使用説明書

お客様ご相談窓口、
修理受付窓口一覧／
安全上のご注意

① **カメラ使用説明書**（本書）

② **ポケットガイド**
すぐに撮影したい方は、このガイドをご覧ください。

③ **CD-ROMガイド**
付属ソフトウェア（EOS DIGITAL Solution Disk）とソフトウェア使用説明書のガイドです。

※ レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
※ レンズキットの種類によっては、レンズの使用説明書が入っていることがあります。
※ 付属品は、なくさないよう注意してください。

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

〈メイン電子ダイヤル〉　：メイン電子ダイヤルを示しています。
〈サブ電子ダイヤル〉　：サブ電子ダイヤルを示しています。
〈マルチコントローラー〉　：マルチコントローラーを示しています。
〈SET〉　：設定ボタンを示しています。
⏱4／⏱6／⏱16　：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ4秒／6秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラに使われている絵文字を使用しています。

MENU　：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用　：ページタイトル右上の 応用 は、応用撮影ゾーン（p.20）限定で使用できる機能であることを示しています。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

💡　：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
？　：困ったときの手助けになる事項を記載しています。
❗　：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
📝　：補足説明や補足事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉または〈⤶〉になっていることを前提に説明しています（p.27）。
- 〈サブ電子ダイヤル〉の操作は、電源スイッチが〈⤶〉になっていることを前提に説明しています。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- EF-S17-85mm F4-5.6 IS USMレンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

　デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方は、1章、2章までの説明で、このカメラの基本的な操作・撮影方法がわかるようになっています。

目　次

はじめに

1　撮影前の準備と操作の基本　23

2　かんたん撮影　47

9　画像の印刷とパソコンへの転送　153

10　カメラをカスタマイズする　171

11　資料　187

機能目次

撮影

露出調整

ストロボ

ライブビュー撮影

画像再生

カスタマイズ

センサークリーニング／ダスト除去

ファインダー

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の残像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、下記の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

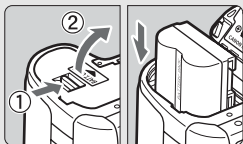
レンズの接点について

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

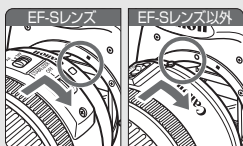
長時間使用時のご注意

連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがありますので、ご注意ください。

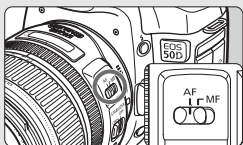
すぐ撮影するには

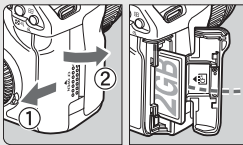
1

電池（バッテリー）を入れる（p.26）

電池の充電方法については24ページを参照してください。

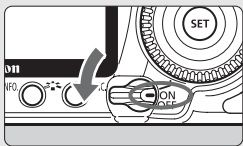
2

レンズを取り付ける（p.31）

EF-Sレンズは白い指標、EF-Sレンズ以外は赤い指標に合わせて取り付けます。

3

レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.31）

4

スロットカバーを開け、カードを入れる（p.29）

カードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。

5

電源スイッチを〈ON〉にする（p.27）

6

モードダイヤルを〈□〉（全自動）にする（p.48）

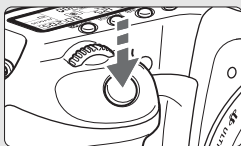
撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

7

ピントを合わせる（p.35）

ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

必要に応じて内蔵ストロボが上がります。

8

撮影する（p.35）

さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

撮影した画像を確認する（p.145）

撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。

〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.132 ）。

- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.132）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.144）を参照してください。

各部の名称

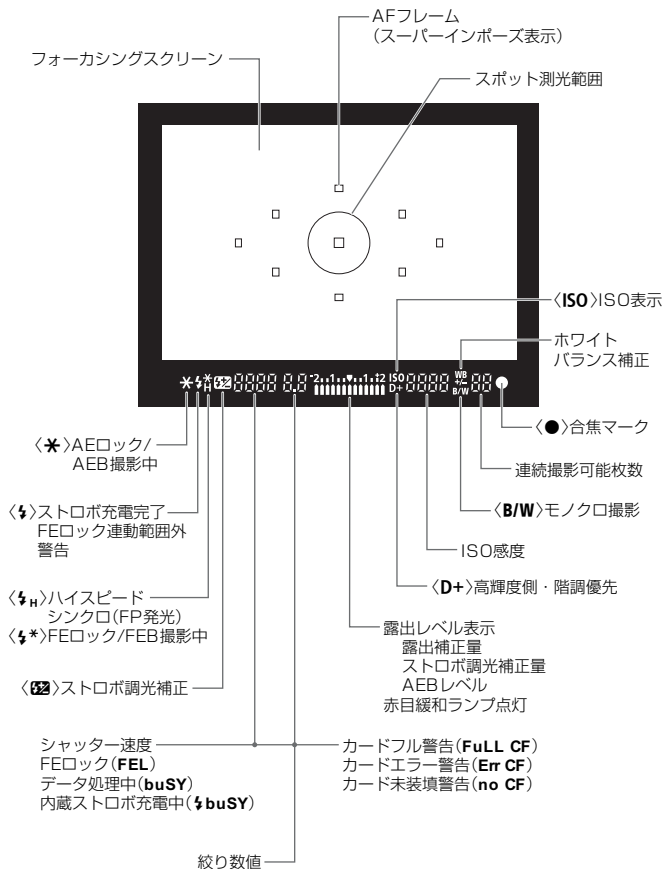
（p.＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

ボディキャップ（p.31）

撮像面マーク
マルチコントローラー(p.36)
視度調整つまみ(p.34)
アイカップ(p.105)
ファインダー接眼部
ライブビュー撮影/イージーダイレクトボタン(p.117 /159、168)
〈MENU〉メニューボタン(p.40)
液晶モニター(p.40、145)
〈INFO.〉インフォ/トリミング枠縦横切り換えボタン(p.120、132、188 / 161)
再生ボタン(p.132)
消去ボタン(p.144)
拡張システム端子
ピクチャースタイル選択ボタン(p.65)
〈FUNC.〉ファンクションボタン(p.184)
三脚ねじ穴
電源/サブ電子ダイヤルスイッチ(p.27)
設定ボタン(p.40)
カードスロット(p.29)
カード取り出しボタン(p.30)
〈AF-ON〉AFスタートボタン(p.35、84、118)
AEロック/FEロックボタン/インデックス/縮小ボタン(p.103 / 110 / 135 / 137、161)
AFフレーム選択/拡大ボタン(p.86 / 137、161)
ストラップ取り付け部(p.23)
カードスロットカバー(p.29)
電池室ふた開放レバー(p.26)
電池室ふた(p.26)
アクセスランプ(p.30)
サブ電子ダイヤル(p.37)
Canon
SET
ON
OFF

表示パネル

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

モードダイヤルは、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンに分けられています。

カメラユーザー設定

カメラに設定されているほとんどの内容を、C1、C2に登録することができます（p.186）。

応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P　：プログラムAE（p.92）
Tv　：シャッター優先AE（p.94）
Av　：絞り優先AE（p.96）
M　：マニュアル露出（p.98）
A-DEP：自動深度優先AE（p.99）

かんたん撮影ゾーン

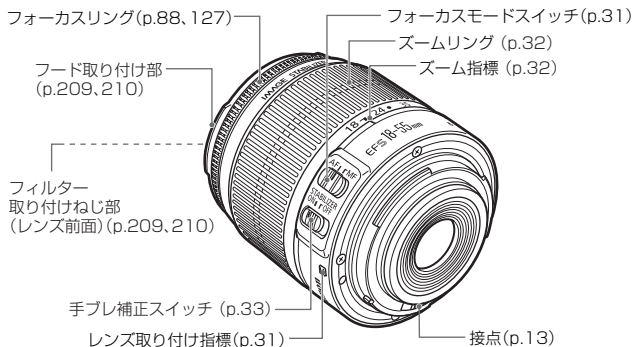
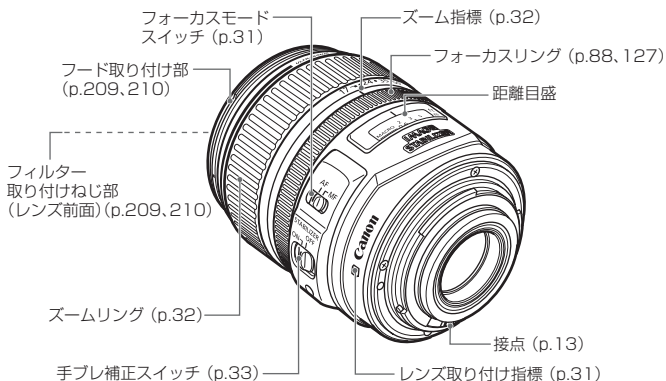
基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体に応じてカメラまかせの全自動撮影ができます。

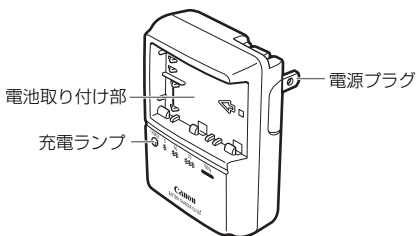
□：全自動（p.48）
CA：クリエイティブ全自動（p.57）

イメージゾーン

：ポートレート（p.51）
：風景（p.52）
：クローズアップ（p.53）
：スポーツ（p.54）
：夜景ポートレート（p.55）
：ストロボ発光禁止（p.56）

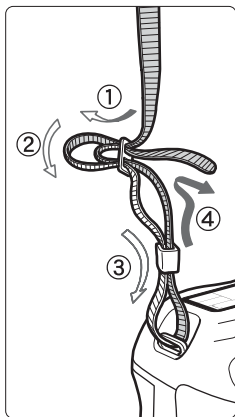
主なキットレンズの各部名称

EF-S18-200mm F3.5-5.6 IS/EF-S18-55mm F3.5-5.6 ISタイプ

EF-S17-85mm F4-5.6 IS USM/EF28-135mm F3.5-5.6 IS USMタイプ

バッテリーチャージャー CG-580

バッテリーパックBP-511Aの充電器です（p.24）。

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、有限責任中間法人 JBRC のホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

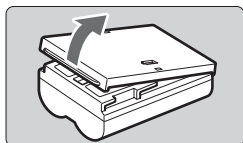
1

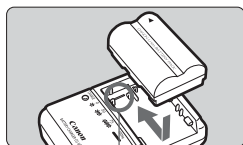
撮影前の準備と操作の基本

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明します。

ストラップ（吊りひも）の取り付け方

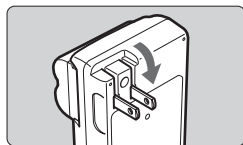
ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

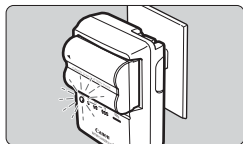
● ストラップにはアイピースカバーが付いています（p.105）。

電池を充電する

1 保護カバーを外す

- 電池をカメラから取り出したときは、ショート防止のため、必ずカバーを取り付けてください。

取り付け指標

2 電池を取り付ける

- 充電器の線（取り付け指標）に電池の先端を合わせ、押し付けながら、スライドさせて取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。

3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。

4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➡ 自動的に充電が始まり、赤い充電ランプが点滅します。
- ➡ **使い切った電池の充電に要する時間は、約100分です。なお、充電時間は、周囲の温度や電池の残り容量によって異なります。**

充電状態	充電ランプ
0〜50%	1回／秒：点滅
50〜75%	2回／秒：点滅
75〜90%	3回／秒：点滅
90%以上	点灯

* 充電器に印刷されている数字とマークは、上の表を図式化したものです。

電池と充電器の上手な使い方

- **充電は、使用する当日か前日にする**
  　充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

- **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

- **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**
  　充電済みの電池に保護カバーを取り付けるときは、電池の青いシールに保護カバーの窓〈□〉が重なるようにします。使用済みの電池のときは、180度回して取り付けます。

- **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**
  　電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

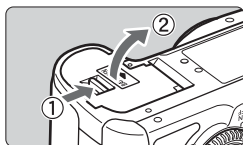
- **充電器は海外でも使うことができる**
  　充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

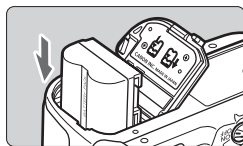
- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**
  　新しい電池をお買い求めください。

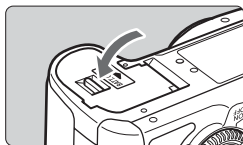
- バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512以外は充電しないでください。
- バッテリーパックBP-511Aは、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

電池を入れる／取り出す

入れ方

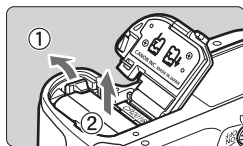
充電したバッテリーパックBP-511Aをカメラに入れます。

1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。

2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3 ふたを閉める

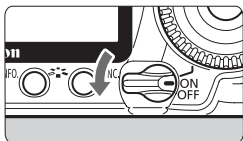
- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

バッテリーパックBP-514、BP-511、BP-512も使用できます。

取り出し方

ふたを開けて、電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に保護カバーを取り付けてください。

電池室ふたを外すときは、開いた状態から無理に押し開かないでください。
ヒンジ部分が壊れる恐れがあります。

電源を入れる

〈OFF〉: カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。
〈ON〉: カメラが作動します。
〈⤶〉: カメラと〈◎〉が作動します（p.37）。

撮像素子の自動清掃について

- 電源スイッチを〈ON/⤶〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます。清掃中は、液晶モニターに〈⁺□⁺〉が表示されます。なお、清掃中でもシャッターボタンを半押し（p.35）すると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈ON/⤶〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈⁺□⁺〉が表示されないことがありますが故障ではありません。

オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、約1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押し（p.35）すると、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、メニュー［**ƒ˙ オートパワーオフ**］で変更することができます（p.44）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、［**書き込み中...**］が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源スイッチを〈ON〉または〈〉にしたときに、4段階で表示されます。

：電池の容量は十分です。

：少し減っていますが、まだ使用できます。

：まもなく電池切れになります。

：電池を充電してください。

撮影可能枚数の目安

［約・枚］

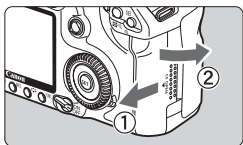
温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+23℃）	800	640
低温（0℃）	680	540

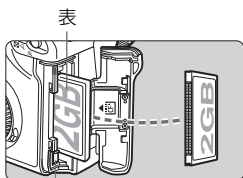
- 撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック BP-511A 使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

- 実際の撮影条件との違いにより、撮影可能枚数が表記数値よりも少なくなることがあります。
- シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AF（オートフォーカス）のみ行って撮影しない操作を頻繁に行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
- 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
- BP-514使用時の撮影可能枚数は、表記枚数と同じになります。
- BP-511、BP-512使用時の撮影可能枚数は、常温で表記枚数の約75%になります。低温では表記数値とほぼ同じになります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズの種類によっては、撮影可能枚数が少なくなります。
- レンズの手ブレ補正機能を使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、119ページを参照してください。

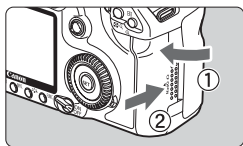
CFカードを入れる／取り出す

画像を記録するCFカードには、厚さの異なる2種類のタイプがありますが、このカメラでは、どちらのタイプも使用できます。また、Ultra DMA（UDMA）対応のカードやハードディスクタイプのカードも使用できます。

入れ方

1 カバーを開ける

- カバーを矢印の方向にスライドさせてから、開きます。

2 カードを入れる

- **図のようにカードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。**
  カードを入れる向きを間違えると、カメラが壊れます。

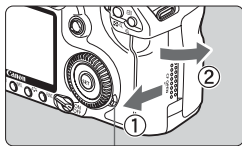
➡ カード取り出しボタンがせり出します。

撮影可能枚数

3 カバーを閉める

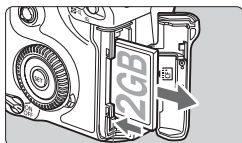
- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。

➡ 電源スイッチを〈ON〉または〈⤶〉にすると、表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- メニュー［📷 カードなしレリーズ］を［しない］に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（p.193）。

取り出し方

アクセスランプ

1 カバーを開ける

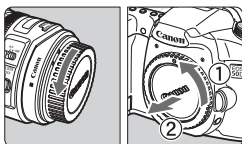
- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**

カード取り出しボタン

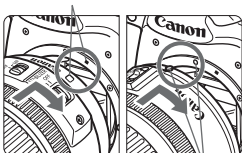
2 カードを取り出す

- カード取り出しボタンを押し込みます。
- ➡ カードが出てきます。
- カバーを閉じます。

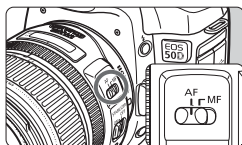
- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。また場合により、カードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因となります。**
  - **・カードスロットカバーを開ける**
  - **・電池を取り出す**
  - **・カメラ本体に振動や衝撃を与える**
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から撮影されないことがあります（p.80）。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善されないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カードを初期化してください。正常な状態に戻ることがあります。
- ハードディスクタイプのカードを手で持つときは、必ずカードの側面を持ってください。平面部分を持つとカードが壊れることがあります。また、振動や衝撃に弱いため、特に記録/再生中は、カメラに振動や衝撃を与えないよう、十分に注意してください。

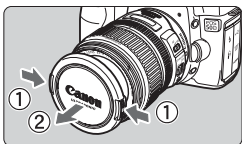
レンズを取り付ける／取り外す

取り付け方

1 キャップを外す

● レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2 レンズを取り付ける

● EF-S レンズとカメラの白い EF-S レンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

● EF-Sレンズ以外を取り付けるときは、赤いEFレンズ取り付け指標に合わせます。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉（自動ピント合わせ）にする

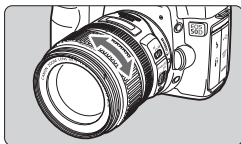
● 〈MF〉（手動ピント合わせ）になっていると自動ピント合わせができません。

4 レンズキャップを外す

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

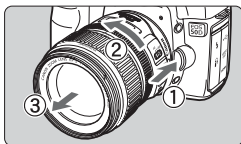
● レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う。

● レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける。

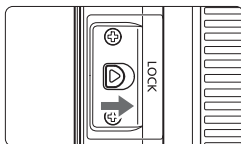
● ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける。

ズーム操作について

ズーム操作は、レンズのズームリングを手で回します。

ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

EF-S18-200mm F3.5-5.6 IS付きキットをご購入の方へ

持ち運びの際にズームリングが動いて、レンズが伸び出ることを防ぐことができます。レンズをワイド端（18mm）にして、レンズ側面のズームリングロックレバーを〈**LOCK**〉方向にスライドさせます。ワイド端以外では、ロックできません。

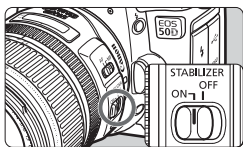
- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因となります。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。

レンズの手ブレ補正機能について

EF-S17-85mm F4-5.6 IS USMレンズを例にして、手ブレ補正機能の説明をします。

* ISは、Image Stabilizer（イメージスタビライザー）の略で、手ブレ補正機能のことです。

1 手ブレ補正スイッチを〈ON〉にする

● カメラの電源スイッチも〈ON〉にしておきます。

2 シャッターボタンを半押しする

➡ 手ブレ補正機能が働きます。

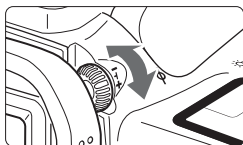
3 撮影する

● ファインダー像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。

● 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
● 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
● EF-S17-85mm F4-5.6 IS USMとEF28-135mm F3.5-5.6 IS USMでは、カメラを動かして流し撮りをすると、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。

● 手ブレ補正機能は、レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉〈**MF**〉どちらのときでも働きます。
● 三脚使用時は、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすると、電池の消耗を防ぐことができます。
● 一脚使用時にも、手ブレ補正効果が得られます。
● 手ブレ補正機能付きレンズの中には、撮影状況に応じて手ブレ補正機能のモードを任意に切り換えることができるレンズがありますが、EF-S18-200mm F3.5-5.6 ISとEF-S18-55mm F3.5-5.6 ISでは、モード切り換えは自動的に行われます。

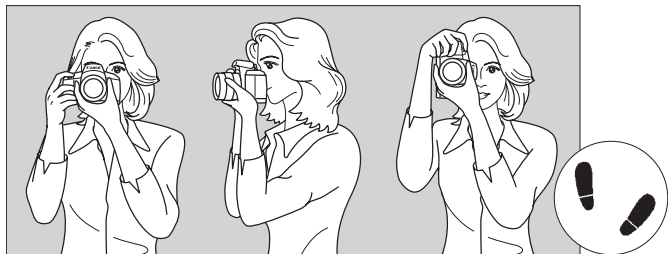
撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する

視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレーム（9つの四角い枠）が最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。

視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズE（10種）の使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

横位置　　縦位置

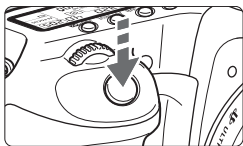
①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
⑥片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階のスイッチになっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、表示パネルとファインダー内に表示されます（⏱4）。

全押し

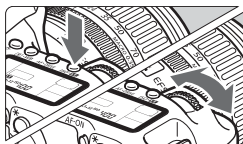
シャッターが切れて撮影されます。

手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

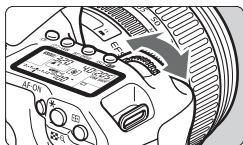
・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

● 応用撮影ゾーンでは、〈AF-ON〉ボタンで半押しと同じ操作ができます。
● シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
● メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

〈 〉メイン電子ダイヤルによる機能の選択と設定

(1) ボタンを押したあと、〈 〉を回す

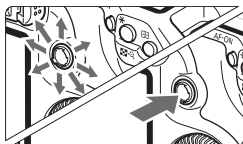
　ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（6）で保持されます。その間に〈 〉を回します。

　タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 測光モード、AFモード、ISO感度、AFフレームの選択・設定などに使用します。

(2) 〈 〉のみを回す

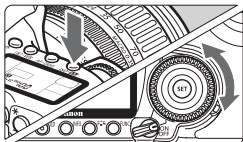
　ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値などの設定に使用します。

〈 〉マルチコントローラー操作

　〈 〉は8方向キーと中央押しボタンの構造になっています。

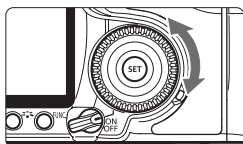
- AF フレーム選択、ホワイトバランス補正、再生時における拡大表示位置の移動、クイック設定画面の操作などに使用します。
  また、メニューの選択を行うことができます（[画像消去] と [カード初期化] を除く）。

〈◎〉サブ電子ダイヤルによる機能の選択と設定

〈◎〉を操作するときは、電源スイッチを〈⤶〉にしてください。

(1) ボタンを押したあと、〈◎〉を回す

ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈◎〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

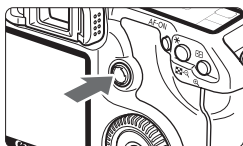
- ホワイトバランス、ドライブモード、ストロボ調光補正、AFフレームの選択・設定などに使用します。

(2) 〈◎〉のみを回す

ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

 （1）の操作は、電源スイッチが〈ON〉の位置でも行うことができます。

クイック設定画面の操作

液晶モニターに撮影機能を表示して、直感的な操作で機能の選択／設定を行うことができます。この画面を「クイック設定画面」といいます。

1 クイック設定画面を表示する

- 〈◈〉をまっすぐに押します。
- ➡ クイック設定画面が表示されます（10秒間）。

かんたん撮影ゾーン

応用撮影ゾーン

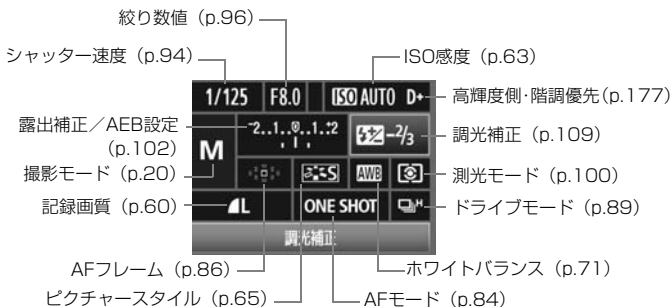
2 機能を設定する

- 〈◈〉で機能を選びます。
- かんたん撮影ゾーンでは、ドライブモード（p.89）の一部と記録画質（p.60）を選ぶことができます。
- ➡ 選んだ内容の説明が、画面下側に表示されます。
- 〈◎〉または〈⌒〉を回して設定を変更します。

3 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ➡ 液晶モニターが消灯して撮影した画像が表示されます。

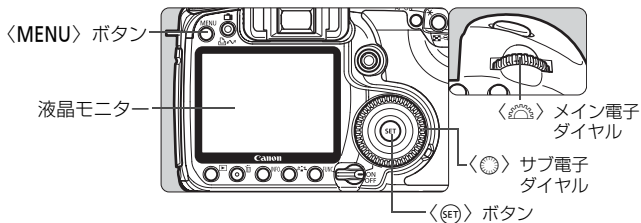
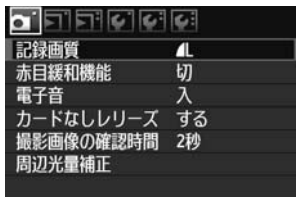
［C.Fn III -3：AFフレーム選択方法］を［1：マルチコントローラーダイレクト］（p.179）に設定すると、クイック設定画面を表示することができなくなります。

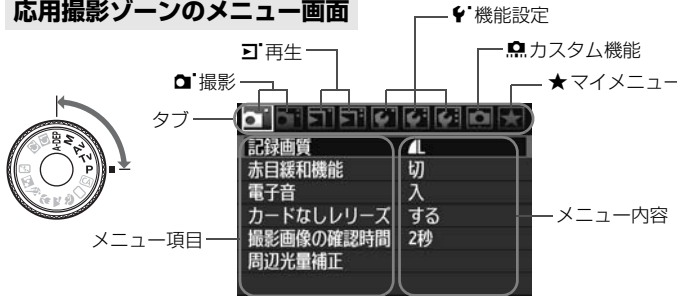
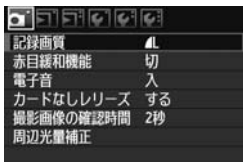
クイック設定画面の内容

各機能の設定画面表示について

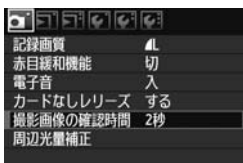
- クイック設定画面で機能を選び〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます（シャッター速度と絞り数値を除く）。
- 〈◎〉または〈⌒〉を回して設定を変更します。〈✣〉で変更できるものもあります。
- 〈SET〉を押すと、クイック設定画面に戻ります。

〈**D+**〉（高輝度側・階調優先）は、クイック設定画面では設定できません。

メニュー機能の操作と設定

　このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。メニュー機能の操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈メイン電子ダイヤル〉〈サブ電子ダイヤル〉を使って行います。

かんたん撮影ゾーンのメニュー画面

* [撮影2/カスタム機能/★] タブは、全自動モードなどのかんたん撮影ゾーンでは表示されません。
　また、かんたん撮影ゾーンでは、表示されないメニュー項目があります。

応用撮影ゾーンのメニュー画面

メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

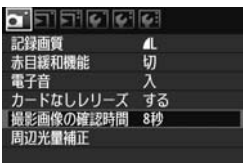
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

- 〈〉を回してタブ（系統）を選びます。

3 項目を選ぶ

- 〈〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を選ぶ

- 〈〉を回して内容を選びます。
- 項目によっては、現在設定されている内容が青色で表示されます。

5 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。

6 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。

これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。

使い始める前の準備

MENU 表示言語を設定する

1 ［言語］を選ぶ

- ［ ］タブの［**言語**］（上から3番目の項目）を選び、〈SET〉を押します。

2 言語を設定する

- 〈 〉を回して言語を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示言語が切り換わります。

MENU 日付／時刻を確認する

日付と時刻を確認し、合っていないときは、次の手順で設定します。

1 ［日付/時刻］を選ぶ

- ［ ］タブの［**日付/時刻**］を選び、〈SET〉を押します。

2 日付/時刻／日付表示順序を設定する

- 〈 〉を回して項目を選びます。
- 〈SET〉を押して、 の状態にします。
- 〈 〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します（□ の状態に戻ります）。

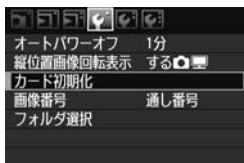
3 設定を終了する

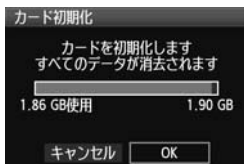
- 〈 〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 日付/時刻が設定され、メニューに戻ります。

撮影した画像には、日付/時刻が一緒に記録されますので、正しく設定してください。

MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1 [カード初期化] を選ぶ

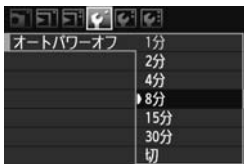
- [🔧] タブの [**カード初期化**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [OK] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [OK] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カードが初期化されます。
- ➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。

カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイル管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

電源が自動的に切れるまでの時間を変更することができます。自動的に切れないようにするときは、[切] に設定します。電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと、電源が入ります。

1 [オートパワーオフ] を選ぶ

- [🔧'] タブの [**オートパワーオフ**] を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

[切] に設定しても、節電のため約30分で液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

1 [設定解除] を選ぶ

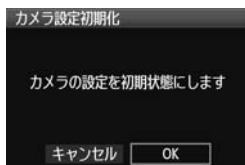
- [**♥:**] タブの [**設定解除**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [カメラ設定初期化] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**カメラ設定初期化**] を選び、〈SET〉を押します。

カメラ設定初期化

カメラの設定を初期状態にします

キャンセル OK

3 [OK] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**OK**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ [**カメラ設定初期化**] を行うと、カメラの設定が次のようになります。

撮影機能関係

AFモード	ワンショットAF
測光モード	◉（評価測光）
ドライブモード	□（1枚撮影）
露出補正	0（ゼロ）
AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
ライブビュー撮影	しない
カスタム機能	そのまま

記録画像関係

記録画質	◢L
ISO感度	Auto
ピクチャースタイル	スタンダード
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB（オート）
WB補正	解除
WB-BKT	解除
周辺光量補正	する／ 登録レンズ保持
画像番号	通し番号
自動クリーニング	する
ダストデリートデータ	消去

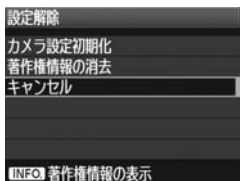
カメラ設定関係

オートパワーオフ	1分
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
ハイライト警告	しない
AFフレーム表示	しない
ヒストグラム	輝度

カメラ設定関係

での画像送り	10枚
縦位置画像回転表示	する
液晶の明るさ	
日付/時刻	そのまま
言語	そのまま
ビデオ出力方式	そのまま
カメラユーザー設定	そのまま
マイメニューの内容	そのまま

著作権情報について

付属ソフトウェアのEOS Utilityで著作権情報の設定を行うと、その内容がExif情報として画像に付加されます。カメラでは、著作権情報の確認と消去のみ行うことができます。なお、著作権情報が設定されていないときは、灰色の表示で操作できません。

- ［**設定解除**］画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、著作権情報が表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと［**設定解除**］画面に戻ります。
- 著作権情報の消去は、［**設定解除**］画面の［**著作権情報の消去**］で行います。

2

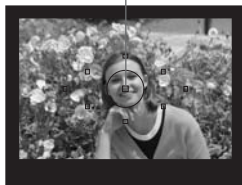
かんたん撮影

この章では、モードダイヤルのかんたん撮影ゾーンを使って上手に撮影する方法を説明しています。

かんたん撮影ゾーンでは、シャッターボタンを押すだけでカメラまかせの撮影ができるよう、各種機能が自動設定されます（p.196）。また、誤操作による失敗を防ぐため、撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。

オートライティングオプティマイザについて

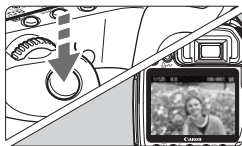
かんたん撮影ゾーンでは、撮影結果に応じて、画像を好ましい明るさ、コントラストに自動補正するオートライティングオプティマイザが働きます。応用撮影ゾーンでも初期設定されています（p.177）。

□ 全自動で撮る

1 モードダイヤルを〈□〉にする

2 被写体（写したいもの）にAFフレームを合わせる

- すべての AF フレームで被写体をとらえ、基本的に一番近くにあるものにピントを合わせます。
- 中央のAFフレームを被写体に重ね合わせるとピントが合いやすくなります。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピントを合わせます。
- ➡ ピントが合うと、ピントを合わせた AF フレームが一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。
- 内蔵ストロボが上がっているときは、手で押し下げて収納します。

? こんなときは

● **合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない**

明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.88）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

● **複数のAFフレームが同時に光る**

赤く光ったすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも光っているときは、そのまま撮影してください。

● **電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）**

動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。電子音が鳴っている状態でシャッターボタンを全押しすると、動いている被写体にピントの合った写真を撮ることができます。

● **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない**

レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっていると、ピント合わせが行われません。〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● **明るい日中なのにストロボ撮影になった**

逆光状態の撮影では、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。

● **暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った**

AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF補助光といわれる機能で、有効距離は約4mです。

● **ストロボが発光したのに暗い写真になった**

写したいものから離れすぎています。5m以内を目安に撮影してください。

● **ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった**

写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。1m以上離れて撮影してください。また、レンズ先端にフードが付いているときは、外して撮影してください。

□ 全自動を使いこなす

構図を変えて撮影する

シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

〈□〉（全自動）では、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影ゾーンの他のモードでもフォーカスロック撮影ができます（〈🏃〉スポーツを除く）。

動いているものを撮影する

〈□〉（全自動）では、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます。被写体がAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈 〉（ポートレート）を使用します。〈 〉（全自動）よりも肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。

撮影のポイント

● **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**

　人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

● **望遠レンズを使用する**

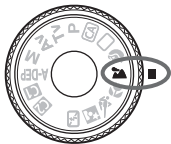
　ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

● **顔にピントを合わせる**

　ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが光ったことを確認して撮影します。

● シャッターボタンを押し続けると、連続撮影（1秒間に最高約3枚）して表情やポーズの変化を写すことができます。
● 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に発光します。

風景を写す

　広がりのある風景や夜景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈〉（風景）を使用します。〈□〉（全自動）よりも空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。

撮影のポイント

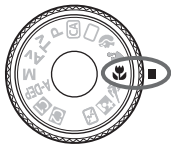
● **ズームレンズは広角側にする**

　ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

● **夜景を撮影するときは**

　〈〉はストロボが発光しませんので、夜景を写すこともできます。手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影します。なお、人物と夜景の両方をきれいに写したいときは、モードダイヤルを〈〉（夜景ポートレート）に設定し、カメラを三脚に固定して撮影します（p.55）。

花や小物を大きく写す

花や趣味の小物などの写真を大きく写したいときは、〈〉（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。

撮影のポイント

● **すっきりした背景を選ぶ**

背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。

● **写したいものに、できるだけ近づく**

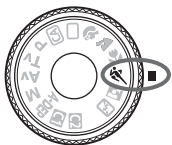
最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈**0.28m/0.9ft**〉というように書かれているものもあります。なお、最短撮影距離は、カメラの右肩に刻印されている〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎると合焦マーク〈●〉が点滅します。

暗い場所ではストロボが発光します。近づきすぎて画面の下側が不自然に暗くなる場合は、少し離れて撮りなおしてください。

● **ズームレンズは望遠側にする**

ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

動きのあるものを写す

子どもの走っている姿や乗り物など、動いているものにピントの合った写真を撮りたいときは、〈 〉（スポーツ）を使用します。

撮影のポイント

● **望遠レンズを使用する**

遠くからでも撮影できるよう、できるだけ望遠レンズを使用します。

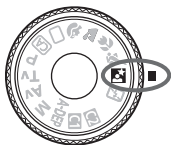
● **中央のAFフレームでピントを合わせる**

ファインダー中央のAFフレームを写したいものに合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影（1秒間に最高約6.3枚）して動きの変化を写すことができます。

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー左下の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。

夜景と人物を明るく写す

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、〈〉（夜景ポートレート）を使用します。

撮影のポイント

● **広角レンズと三脚を使用する**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影します。

● **人物との距離は5m以内にする**

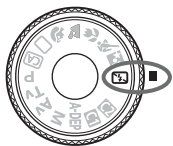
暗い場所ではストロボが自動発光して人物をきれいに写します。人物との距離を5m以内にすると、ストロボ光が届きます。

● **〈□〉（全自動）でも撮影しておく**

ブレた写真になりやすいので、〈□〉（全自動）でも撮影しておくことをおすすめします。

● ストロボが発光してもすぐに動かないように、写真を撮られる人に声をかけてください。
● セルフタイマー併用時は、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

ストロボが使えない場所で写す

美術館や水族館など、ストロボ撮影が禁止されている場所では、〈〉（ストロボ発光禁止）を使用します。また、キャンドルライトなど、独特の明かりの雰囲気を効果的に写したいときにも使用します。

撮影のポイント

● **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**

　手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

● **人物も写真に入れるときは**

　暗い場所では、撮影が終わるまで写される人が動かないようにします。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

このモード〈〉（ストロボ発光禁止）ではAF補助光は投光されません。なお、クリエイティブ全自動の〈〉（発光禁止／p.58）では、暗い場所でピントが合いにくいとストロボが上がってAF補助光を投光します。

CA クリエイティブ全自動で撮る

〈CA〉（クリエイティブ全自動）は、わかりやすい操作で、簡単に写真の明るさなどが変更できる撮影モードです。初期状態の設定は、〈□〉（全自動）と同じです。

＊ CAは、Creative Auto（クリエイティブオート）の略です。

1 モードダイヤルを〈CA〉にする

➡ 液晶モニターに、クリエイティブ全自動の画面が表示されます。

2 〈⊕〉をまっすぐに押す

➡ 〈⊕〉で機能を選ぶことができるようになります。

● 次ページ①～⑥の機能を選ぶことができます。

3 機能を設定する

● 〈⊕〉で機能を選びます。

➡ 選んだ内容の説明が、画面下側に表示されます。

● 〈◎〉または〈⌒〉を回して設定を変更します。

● 〈⊕〉をまっすぐに押すと、手順1の画面に戻ります。

4 撮影する

● 撮影中は、液晶モニターが消灯します。

● 撮影モードを切り換えたり、電源スイッチを切ると、設定した内容は初期状態に戻ります。なお、記録画質の設定とセルフタイマーはそのまま保持されます。

シャッター速度、絞り数値

①ストロボの発光

〈⚡A〉(自動発光)、〈⚡〉(常時発光)、〈⊛〉(発光禁止、AF補助光あり)を選ぶことができます。〈⊛〉を選んだときは、56ページの『ストロボが使えない場所で写す』を参考にして撮影します。

②背景をぼかす／くっきりさせる

カーソルを左に動かして撮影すると、被写体の背景がぼけた写真になります。右に動かして撮影すると、被写体の背景がくっきりした写真になります。背景をぼかしたいときは、51ページの『人物を写す』を参考にして撮影します。

③写真を暗くする／明るくする

カーソルを左に動かして撮影すると、暗い写真になります。右に動かして撮影すると、明るい写真になります。

④ピクチャースタイル

4種類のピクチャースタイル（p.65、66）を選ぶことができます。

⑤1枚／連続／セルフタイマー撮影

〈▭〉を選ぶと、1秒間に約3枚連続撮影することができます。〈◌〉を選んだときは、90ページ『セルフタイマー撮影』の 🗎（ノート）を参考にして撮影します。

⑥記録画質

〈SET〉を押すと、記録画質設定画面が表示されます。60ページの『記録画質を設定する』を参考にして設定します。設定後、〈SET〉を押すと前ページの手順2の画面に戻ります。

画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、色空間などの画像に関係する機能設定について説明します。

- かんたん撮影ゾーンでは、この章の中の、記録画質の設定、レンズの周辺光量を補正する、フォルダの作成と選択、画像番号の付けかたの設定のみが行えます。
- ページタイトル右の 応用 マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、A-DEP）限定の機能であることを示しています。

MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と、その画質を選ぶことができます。JPEG（ジェイペグ）タイプの記録画質は、**◢L**、**▟L**、**◢M**、**▟M**、**◢S**、**▟S** です。RAWの記録画質**RAW**、**SRAW1**、**SRAW2**は、撮影後、付属ソフトウェアで現像処理を行います（p.62）。

1 ［記録画質］を選ぶ

- ［📷］タブの［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ［**記録画質**］が表示されます。

2 記録画質を設定する

- RAWの記録画質は〈メイン電子ダイヤル〉、JPEGの記録画質は〈サブ電子ダイヤル〉を回して選びます。
- 画面の数字 「***M（百万画素）****×****」は記録画素数、「***」は撮影可能枚数（999まで表示）を示しています。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

記録画質の設定例

◢Lのみ

RAWのみ

RAW＋**◢L**

SRAW2＋**◢M**

* RAWとJPEGの設定を、両方［－］にしたときは、**◢L**が設定されます。

記録画質を選ぶときの目安（約）

記録画質		記録画素数	印刷サイズ	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
JPEGの設定	◢L	約1510万（15M）	A3以上	5.0	370	60（90）
	▟L			2.5	740	150（740）
	◢M	約800万（8M）	A3～A4	3.0	620	110（620）
	▟M			1.6	1190	390（1190）
	◢S	約370万（3.7M）	A4以下	1.7	1090	330（1090）
	▟S			0.9	2040	1050（2040）
RAWの設定	RAW	約1510万（15M）	A3以上	20.2	91	16（16）
	sRAW1	約710万（7.1M）	A3～A4	12.6	140	16（16）
	sRAW2	約380万（3.8M）	A4以下	9.2	200	19（19）
RAWとJPEGの設定	◢L RAW	約1510万 約1510万	A3以上 A3以上	20.2+ 5.0	72	10（10）
	◢L sRAW1	約1510万 約710万	A3以上 A3～A4	12.6+ 5.0	100	10（10）
	◢L sRAW2	約1510万 約380万	A3以上 A4以下	9.2+ 5.0	120	11（11）

- ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準2GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、高速連続撮影時の数値です。なお、（ ）内の数値は、当社試験基準Ultra DMA（UDMA）対応2GBカード使用時の枚数です。

- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で、選んだ記録画質を同時に記録します。2つの画像は、同じフォルダに同じ画像番号（拡張子はJPEG：JPG、RAW：CR2）で保存されます。
- sRAW1、sRAW2は、どちらを選んでも表示パネルでは sRAW と表示されます。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、sRAW1（スモールロウ1）、sRAW2（スモールロウ2）、◢（ファイン）、▟（ノーマル）、**L**（ラージ）、**M**（ミドル）、**S**（スモール）です。

RAWについて

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生データ」です。RAW、SRAW1、SRAW2から選ぶことができます。本文中で「RAW」と表記している内容は、RAW、SRAW1、SRAW2の3つをまとめて指しています。

RAW画像は、付属のソフトウェアで、使用目的に応じたさまざまな画像調整を行うことができます。また、ソフトウェアの現像処理機能により、調整結果を反映した、使用目的に最適なJPEG画像、TIFF画像などを生成することができます。

［C.Fn II -2：高感度撮影時のノイズ低減］とRAW画像、RAW+JPEG画像について

記録された画像には［C.Fn II -2：高感度撮影時のノイズ低減］（p.176）の設定（標準／弱め／強め／しない）が反映されていますが、カメラによる再生（液晶モニター表示とテレビ表示）、ダイレクトプリントでは、ノイズ低減されていない画像が使用されます（ノイズが目立つ場合があります）。
ノイズ低減効果の確認とノイズ低減画像の印刷は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行ってください。

市販のソフトウェアでは、撮影したRAW画像を表示できないことがあります。付属のソフトウェアの使用をおすすめします。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）について

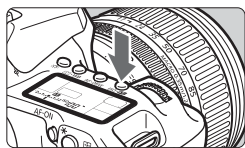
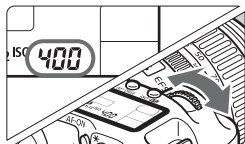
前ページの「連続撮影可能枚数」は、初期化された2GBのカードを使用したときに、連続して何枚撮影できるかを示しています。

ファインダー内右下の数字で、連続撮影できる枚数の目安（99枚以上のときは99）が確認できます。

- 連続撮影可能枚数は、カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。
- 連続撮影可能枚数は、ドライブモードの設定に関係なく、〈□H〉の枚数が表示されます。
- ［**C.Fn II -2：高感度撮影時のノイズ低減**］を［**2：強め**］に設定すると、連続撮影可能枚数が少なくなります（p.176）。

連続撮影可能枚数が、ファインダー内で「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、表示されている数値が減っていきます。撮影を中断すると、数値が増えていきます。画像がすべてカードに書き込まれると、61ページの表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

ISO：ISO感度を設定する 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影する場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンでは、ISO感度が自動設定されます（p.64）。

1 〈ISO・⚡〉ボタンを押す（⏱6）

2 ISO感度を設定する

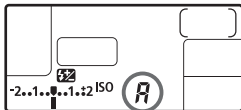
- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈⚙〉を回します。
- ISO100〜3200まで、1/3段ステップで設定することができます。
- 「**A**」を選ぶとISO感度が自動設定されます（p.64）。

ISO感度を選ぶときの目安

ISO感度	撮影シーン（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
100～200	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります（p.108）。
400～800	曇り空、夕方	
1600～3200、H1、H2	暗い屋内、夜景	

- ［C.Fn II -3：高輝度側・階調優先］を［1：する］に設定すると、ISO感度の設定可能範囲がISO200～3200になります（p.177）。
- ISO感度を高くしたり、高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長時間露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。

［C.Fn I -3：ISO感度拡張］を［1：する］に設定すると、「**H1**」（ISO6400相当）「**H2**」（ISO12800相当）も選択できるようになります（p.174）。

ISO感度の自動設定「A」（Auto）について

ISO感度の設定が「**A**」のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が表示されます。ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

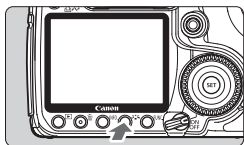
撮影モード	ISO感度設定
□/▲/❀/🏃/▣/⚡/CA/**P**/**Tv**/**Av**/**A-DEP**	ISO100～1600
👤	ISO100固定
M	ISO400固定
ストロボ撮影時	ISO400固定*

*日中シンクロで露出オーバーになる場合は、最低ISO100。

ピクチャースタイルを選択する 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

かんたん撮影ゾーンでは、ピクチャースタイルの選択はできません（CAを除く）。

1 〈ピクチャースタイル〉ボタンを押す

- 撮影準備状態で〈ピクチャースタイル〉ボタンを押します。
- ➡ ピクチャースタイル画面が表示されます。

2 スタイルを選ぶ

- 〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉を回してスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイルが設定され、撮影準備状態に戻ります。

メニュー［撮影 ピクチャースタイル］から設定することもできます。

各ピクチャースタイルの画像特性について

S スタンダード（CA：スタンダード）

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

P ポートレート（CA：肌色がきれい）

肌がきれいで、ややくっきりした写真になります。女性や子どもをアップで写すときに効果的です。モードダイヤルが〈ポートレート〉のときにも自動設定されます。

67ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

L 風景（CA：青空や緑が鮮やか）

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。モードダイヤルが〈風景〉のときにも自動設定されます。

N ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

F 忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の環境光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるよう色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

M モノクロ（CA：モノクロ画像）

白黒写真になります。

RAW以外の記録画質で撮影した画像は、カラー写真に戻すことができません。［**モノクロ**］に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。なお、［**モノクロ**］設定時は、ファインダー内と表示パネルに〈**B/W**〉が表示されます。

1 ユーザー設定1～3

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.69）。登録されていないときは、［**スタンダード**］の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号について

スタイル選択画面の上にある記号は、［**シャープネス**］［**コントラスト**］などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている［**シャープネス**］［**コントラスト**］などの設定値を示しています。

記号の意味

記号	意味
	シャープネス
	コントラスト
	色の濃さ
	色あい
	フィルター効果（モノクロ）
	調色（モノクロ）

ピクチャースタイルを調整する 応用

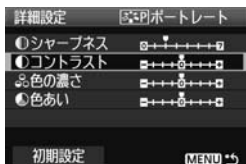
それぞれのピクチャースタイルは、好みに合わせて設定内容（[**シャープネス**] [**コントラスト**] など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りをかさねて確認してください。[**モノクロ**] の調整については、次ページを参照してください。

1 〈 〉ボタンを押す

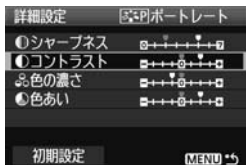
2 スタイルを選ぶ

- 〈 〉または〈 〉を回してスタイルを選び、〈INFO.〉ボタンを押します。

3 項目を選ぶ

- 〈 〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を設定する

- 〈 〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。

➡ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容とその効果

シャープネス	[0] ：輪郭強調・控えめ	[+7]：輪郭強調・強め
コントラスト	[-4]：明暗差・弱	[+4]：明暗差・強
色の濃さ	[-4]：薄い	[+4]：濃い
色あい	[-4]：肌色が赤め	[+4]：肌色が黄色め

● 手順３で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに、設定した内容を初期状態に戻すことができます。
● 調整したスタイルで撮影するときは、前ページの手順2で、調整したスタイルを選択してから撮影します。

モノクロの調整

前のページで説明した［**シャープネス**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定することができます。

フィルター効果

フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N ：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R ：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G ：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

ピクチャースタイルを登録する 応用

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みに合わせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。

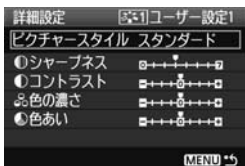
シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。また、付属のソフトウェアからカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

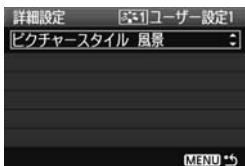
1 〈 〉ボタンを押す

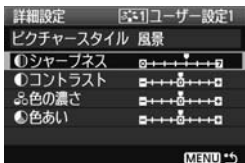
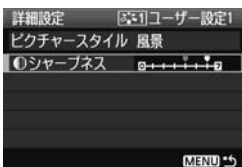
2 ［ユーザー設定］を選ぶ

- 〈 〉を回して［**ユーザー設定＊**］を選び、〈INFO.〉ボタンを押します。

3 〈SET〉を押す

- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。

4 基本にするスタイルを選ぶ

- 〈 〉を回して基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- 付属のソフトウェアから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

5 項目を選ぶ

- ［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

6 内容を設定する

- 〈〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
  詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』(p.67、68) を参照してください。

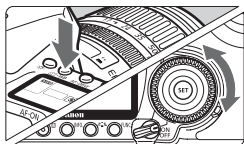
- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。

➡ [**ユーザー設定＊**] の右に、基本にしたスタイルが表示されます。

[**ユーザー設定＊**] にスタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。

登録したスタイルで撮影するときは、前ページの手順2で、[**ユーザー設定＊**] を選択してから撮影します。

WB：ホワイトバランスの設定 応用

ホワイトバランス（WB）は白いものを白く写すための機能です。通常は〈AWB〉（オート）で適切なホワイトバランスが得られます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。かんたん撮影ゾーンでは〈AWB〉に自動設定されます。

1 〈・WB〉ボタンを押す（6）

2 ホワイトバランスを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈〉を回します。

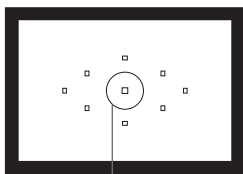
表示	モード	色温度（約・K：ケルビン）
AWB	オート	3000～7000
	太陽光	5200
	日陰	7000
	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
	白熱電球	3200
	白色蛍光灯	4000
	ストロボ使用	6000
	マニュアル（p.72）	2000～10000
K	色温度（p.73）	2500～10000

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、色の基準となる白を決め、白を基準に色の補正が行われます。これにより、自然な色あいで撮影できます。

メニュー［ ホワイトバランス］から設定することもできます。

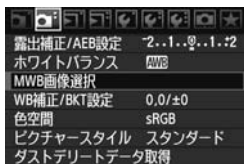
マニュアルホワイトバランス

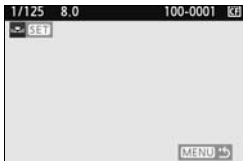
マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを厳密に設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

スポット測光範囲

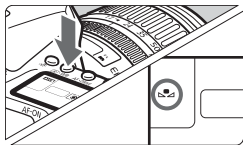
1 白い被写体を撮影する

- スポット測光範囲の領域全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスの設定は、どれでも構いません。

2 ［MWB画像選択］を選ぶ

- ［ ］タブの［MWB画像選択］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定画面になります。

3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 〈 〉または〈 〉を回して手順 1 で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示されるメッセージ画面で［OK］を選ぶとデータが取り込まれます。

4 〈 ・WB〉ボタンを押す（6）

- メニューを終了してから、〈 ・WB〉ボタンを押します。

5 マニュアルWBを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈 〉を回して、〈 〉を選びます。

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像（p.66）は、手順3で選択できません。

- 白い被写体の代わりに18%標準反射板（市販品）を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。
- 付属のソフトウェアから登録するカスタムホワイトバランスは、〈カスタム〉に登録されます。なお、手順3の操作を行うと、登録したカスタムホワイトバランスのデータは消去されます。

K 色温度を直接設定する

ホワイトバランスの色温度を数値で設定することができる、上級者向けの機能です。

1 ［ホワイトバランス］を選ぶ

- ［撮影2］タブの［**ホワイトバランス**］を選び、〈SET〉を押します。

2 色温度を設定する

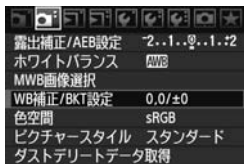
- 〈◎〉を回して［K］を選びます。
- 〈ダイヤル〉を回して色温度を設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、2500〜10000K（100Kステップ）です。

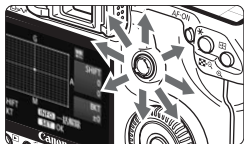
- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてホワイトバランス補正（マゼンタ、またはグリーン寄り）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度数値を〈K〉に設定する場合は、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

MENU ホワイトバランスを補正する 応用

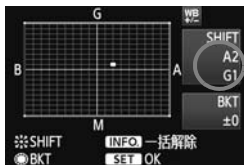
設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販品の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

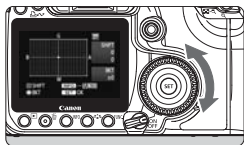
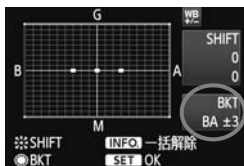
ホワイトバランス補正

1 ［WB補正/BKT設定］を選ぶ

- ［◘⁝］タブの［WB補正/BKT設定］を選び、〈SET〉を押します。

2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✣〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと［WB補正/BKT設定］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

設定例：A2, G1

- WB補正中は、ファインダー内と表示パネルに〈WB±〉が表示されます。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。これをホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。

B/A方向±3段のとき

補正幅を設定する

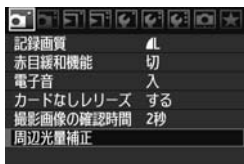
- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。
  右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

記録される順番について

①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約1/3になります。また、表示パネルのホワイトバランスマークが点滅します。
- ホワイトバランス補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影との組み合わせでは、合計9枚の画像が記録されます。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

MENU レンズの周辺光量を補正する

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を、「レンズ周辺光量の低下」といいますが、この現象を補正することができます。JPEG画像は、撮影時に補正されます。RAW画像は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで補正します。

1 **［周辺光量補正］を選ぶ**

- ［◘˙］タブの［**周辺光量補正**］を選び、〈SET〉を押します。

2 **内容を確認する**

- 表示される画面で、装着レンズの「**補正データあり**」が表示されていることを確認します。
- 「**補正データなし**」が表示されているときは、次ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。
- 〈◎〉を回して補正［**する**］を選び、〈SET〉を押します。

3 **撮影する**

- 周辺光量が補正された画像が表示されます。

周辺光量補正

あり

なし

レンズの補正データについて

カメラにはあらかじめ、レンズ約20本分の周辺光量補正を行うためのデータが登録されています。手順2で補正［**する**］を選んでおくと、補正データが登録されているレンズを装着したときに、自動的に周辺光量が補正されます。

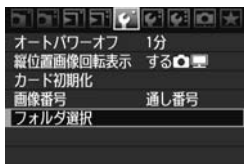
付属ソフトウェアのEOS Utilityを使用すると、登録されているレンズの種類が確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することができます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）のEOS Utility使用説明書を参照してください。

- 撮影後のJPEG画像は、レンズの周辺光量補正を行うことができません。
- 撮影条件によっては、画像周辺部にノイズが発生する場合があります。
- 他社製のレンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、補正［**しない**］に設定することをおすすめします。

- エクステンダー装着時にも周辺光量補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります。
- 付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりもやや控えめに補正されます。
- 距離情報を持たないレンズでは、補正量が少なくなります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 周辺光量の低下が少ないレンズでは、補正効果が確認しにくいことがあります。

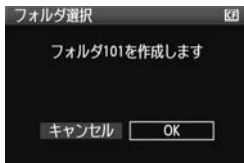
MENU フォルダの作成と選択

　画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。
　なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成

1 ［フォルダ選択］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**フォルダ選択**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［フォルダ作成］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**フォルダ作成**］を選び、〈SET〉を押します。

3 フォルダを作成する

- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 番号が1つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択

- フォルダ選択画面が表示された状態で、〈◎〉を回してフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。
- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

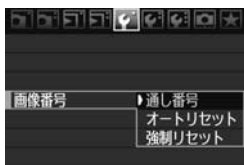
フォルダ名は、「**100CANON**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001〜9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.81）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100〜999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100〜999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA〜Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_ 」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときも、カメラがフォルダを認識できません。

MENU 画像番号の付けかたを設定する

　画像番号は、フィルムのコマ番号に相当するもので、撮影した順に0001～9999の番号が付けられて、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付けかたを変えることができます。

　画像番号は、パソコンでは IMG_0001.JPG というような形で表示されます。

1 ［画像番号］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**画像番号**］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像番号の付けかたを選ぶ

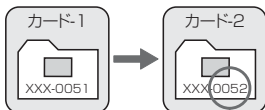
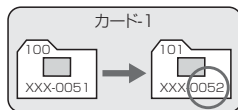
- 〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。

通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

　カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

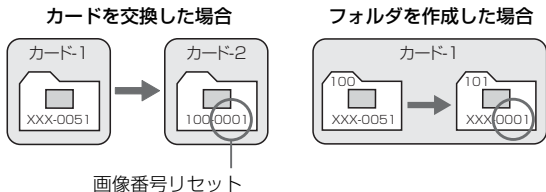
　ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合

フォルダを作成した場合

オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行って撮影すると、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像番号0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合　　**フォルダを作成した場合**

強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります。

フォルダ番号999のフォルダが作成されると、液晶モニターに［**フォルダ番号がいっぱいです**］と表示されます。そのフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

ファイル名は、JPEG画像、RAW画像ともに「IMG_ 」になります。拡張子は、JPEG画像が「 .JPG」、RAW画像が「 .CR2」になります。

MENU 色空間を設定する 応用

色空間とは、再現できる色の範囲（色域特性）のことです。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときは、sRGBをおすすめします。

かんたん撮影ゾーンではsRGBに自動設定されます。

1 ［色空間］を選ぶ

- ［📷⁚］タブの［色空間］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

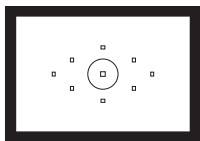
- ［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した画像は、ファイル名が「_MG_」（先頭文字がアンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

4

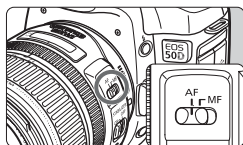
AF ／ドライブの設定

ファインダー内には、9つのAFフレームが配置されています。適切なAFフレームを任意に選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。

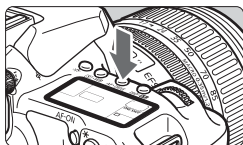
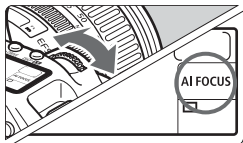
また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

- ページタイトル右の 応用 マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**A-DEP**）限定の機能であることを示しています。
- かんたん撮影ゾーンでは、AFモード、AFフレーム、ドライブモードが自動設定されます。

〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

AF: AFモードの選択 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAFモードが自動設定されます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする

3 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（⏱6）

4 AFモードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

ONE SHOT：ワンショットAF
AI FOCUS：AIフォーカスAF
AI SERVO：AIサーボAF

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行った AF フレームが赤く光り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が表示されます。
- 評価測光のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。
- 応用撮影ゾーンでは、〈AF-ON〉ボタンでもAFを行うことができます。

- ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』（p.88）を参照してください。
- メニュー［電子音］を［切］に設定すると、ピントが合ったときに、合焦音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF

撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 応用撮影ゾーンでは、〈AF-ON〉ボタンでもAFを行うことができます。
- AF フレーム選択（p.86）が、自動選択のときは、初めに中央の AF フレームで被写体をとらえます。AFを行っているときに被写体が中央のAFフレームから外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていれば、継続してピント合わせが行われます。

AIサーボAFでは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

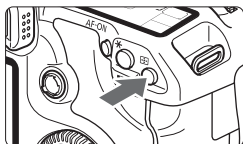
AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF

被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。

- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカスAFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴ります。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。

〈⊡〉AFフレームの選択 応用

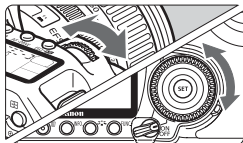
9点のAFフレームの中から、ピント合わせに使うAFフレームを選びます。なお、かんたん撮影ゾーンと〈A-DEP〉では、AFフレーム自動選択が自動設定されますので、AFフレームの任意選択はできません。

1 〈⊡〉ボタンを押す（⏱6）

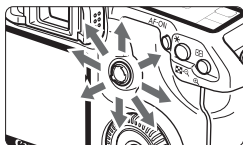
➡ 現在選択されている AF フレームが、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

- ファインダー内のすべての AF フレームが点灯しているときは、自動選択になります。

2 AFフレームを選択する

- 〈⌒〉、または〈◎〉を回して選択する方法と、〈✣〉を操作して選択する方法があります。

電子ダイヤルによる選択

- 〈⌒〉、または〈◎〉を回すと、回した方向に選択AFフレームが移動します。
- すべての AF フレームが点灯すると自動選択になります。

マルチコントローラーによる選択

- 〈✣〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。同じ方向に押すと、任意選択と自動選択が交互に切り換わります。

- 表示パネルを見ながらAFフレームを選択するときは、次の図を参考にしてください。

  自動選択[-:::-]、中央[-]、右[-]、上[‾]
- EOS 用外部ストロボ使用時に AF 補助光でピントが合わないときは、中央のAFフレームを選択してください。

内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- 〈 〉〈 〉〈 〉では、AF補助光は光りません。
- 内蔵ストロボによるAF補助光でピントが合う範囲は約4mまでです。
- 応用撮影ゾーンでは、〈 〉ボタンを押してストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。

使用レンズの明るさとAF測距について

F5.6より明るいレンズ使用時

すべてのAFフレームで十字測距（縦横線同時検出）を行うことができます。

F2.8より明るいレンズ使用時*

中央AFフレームでより高精度な十字測距（縦横線同時検出）を行うことができます。中央AFフレームでは、他のAFフレームの約2倍の敏感度で縦横線検出が行われます。

残る8つのAFフレームでは、F5.6より明るいレンズ使用時と同じ十字測距になります。

* EF28-80mm F2.8-4L USM、EF50mm F2.5コンパクトマクロを除く

AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない(合焦マーク〈●〉が点滅する)ことがあります。

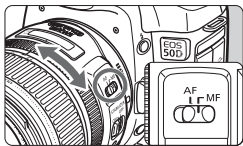
ピントが合いにくい被写体

- 明暗差(コントラスト)が極端に低い被写体
  (例:青空、単色の平面など)
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
  (例:反射光の強い車のボディ)
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合(例:おりの中の動物)
- 繰り返し模様の被写体
  (例:ビルの窓やパソコンのキーボードなど)

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

(1) ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する(p.50)。

(2) レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う。

手動ピント合わせ(マニュアルフォーカス)

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

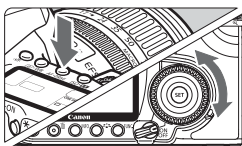
2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ファインダー内にピントが合ったAFフレームと合焦マーク〈●〉が点灯します。

ドライブモードの選択 応用

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なドライブモードが自動設定されます。

1 **〈AF・DRIVE〉ボタンを押す**（6）

2 **ドライブモードを選ぶ**

● 表示パネルを見ながら〈〉を回します。

□ ：**1枚撮影**
　シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

H：**高速連続撮影**（最高約6.3コマ／秒）

：**低速連続撮影**（最高約3コマ／秒）
　H、ともに、シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続して撮影します。

：**セルフタイマー撮影**（10秒後）

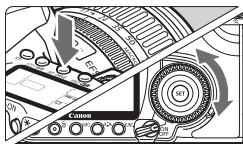
2：**セルフタイマー撮影**（2秒後）
　セルフタイマー撮影については、次ページを参照してください。

● 連続撮影を行い、内部メモリーがいっぱいになると、表示パネルとファインダー内に「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。カードへの記録経過にともない、次の撮影ができるようになりますので、シャッターボタンを半押しして、ファインダー内右下に表示される連続撮影可能枚数で、そのとき撮影できる枚数を確認してください。

連続撮影可能枚数

● ファインダー内と表示パネルに「**FuLL CF**」が表示されたときは、必ずアクセスランプの点滅が消えてから、カードを交換してください。
● 電池の残量が少なくなると、連続撮影速度が若干低下します。
● AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズによって連続撮影速度が若干低下することがあります。

セルフタイマー撮影

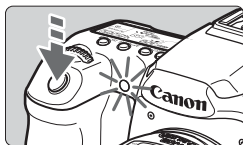
セルフタイマーは記念撮影などに使用します。〈〉（10秒タイマー）は、どの撮影モードでも使用できます。

1 〈AF･DRIVE〉ボタンを押す（6）

2 セルフタイマーを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈〉を回して選びます。

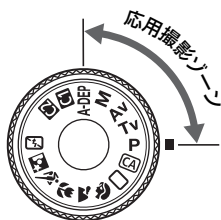
  ：10秒後に撮影
  2：2秒後に撮影 応用

3 撮影する

- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプと電子音、表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。
- ➡ 撮影2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

- セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し（p.132）、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバー（p.105）を取り付けてください。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロック（p.50）して撮影します。
- セルフタイマー撮影を中止するときは、〈AF･DRIVE〉ボタンを押します。

5

撮影目的にあわせた応用撮影

応用撮影ゾーンでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の応用マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、A-DEP）限定の機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、表示パネルとファインダー内に露出値が約4秒間（⏱4）表示されます。
- 応用撮影ゾーンで設定できる機能は、『撮影機能の組み合わせ一覧』（p.196）を参照してください。

あらかじめ電源スイッチを〈⌐〉にしてください。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

＊ AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1 モードダイヤルを〈P〉にする

2 ピントを合わせる

● ファインダーをのぞいて、選択した AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

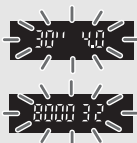
➡ ピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが赤く光り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF+AFフレーム自動選択時）。

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

3 表示を確認する

● シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。

4 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

- シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
  ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- シャッター速度の「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
  ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

〈**P**〉と〈□〉（全自動）の違いについて

〈□〉では、失敗を防ぐために、AFモードやドライブモード、内蔵ストロボなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。対して、〈**P**〉では、自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AFモードやドライブモード、内蔵ストロボなどの機能は自由に設定することができます。

プログラムシフトについて

- プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈⚙〉を回します。
- プログラムシフトは、撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

Tv：シャッター速度を決めて撮る

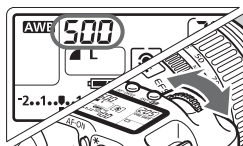
シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

動きを止めた写真
（速いシャッター速度）

流動感のある写真
（遅いシャッター速度）

---

1 モードダイヤルを〈Tv〉にする

2 シャッター速度を設定する

● 表示パネルを見ながら〈〉を回します。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。

➡ 絞り数値が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

● 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。

- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示

「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

Av：絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略で開口量のことです。

背景をぼかした写真
（小さい絞り数値）

背景にもピントの合った写真
（大きい絞り数値）

1 モードダイヤルを〈**Av**〉にする

2 絞り数値を設定する

- 表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。

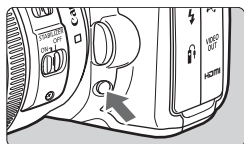
4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。

- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を小さく（絞りを開いて）するか、ISO感度を上げます。
- シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を大きく（絞りを閉じて）するか、ISO感度を下げます。

絞り数値の表示

数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

ピントの合う範囲を確認する 応用

絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値で絞り込みが行われ、ピントの合う奥行き（被写界深度）をファインダーで確認できます。

- 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーが暗くなります。
- 被写界深度の効果がわかりにくいときは、絞り込みボタンを押したまま〈〉を回してください。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M: 自分で露出を決めて撮る

自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

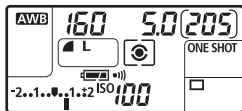
＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈⚙〉を回して設定します。
- 絞り数値は、電源スイッチを〈⤴〉にして、〈◎〉を回して設定します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。

4 露出を決める

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

5 撮影する

A-DEP：近くから遠くまでピントが合った写真を撮る

自動的に近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。すべてのAFフレームで被写体を検出し、検出できた範囲（奥行き）にピントが合うよう絞り数値が自動設定されます。

＊〈A-DEP〉は、Auto-Depth of field（オートデプスオブフィールド）の略でピントの合う奥行きを自動設定するという意味です。

1 モードダイヤルを〈A-DEP〉にする

2 ピントを合わせる

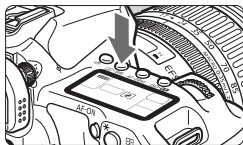
- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします（4）。
- 一瞬赤く光ったAFフレームのすべてにピントが合います。

3 撮影する

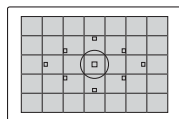
- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げてください。
- シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げてください。

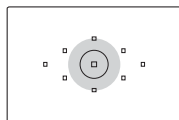
- 絞り数値が点滅するときは、露出は合っていますが、希望したピントの奥行きが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。
- 遅いシャッター速度が設定されることがありますので、三脚の使用をおすすめします。
- ストロボを使用したときは、〈**P**〉のストロボ撮影と同じ結果になります。

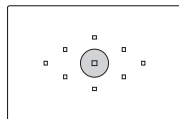
[◉] 測光モードの選択 応用

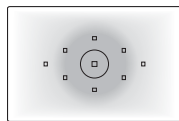
測光モードは、被写体の明るさを測る機能の特性のことです。かんたん撮影ゾーンでは評価測光に自動設定されます。

1 〈◉・WB〉ボタンを押す（⏱6）

2 測光モードを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

[◉] 評価測光

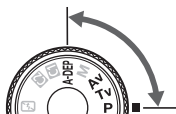
逆光撮影を含む一般的な人物撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

[○] 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合に有効です。ファインダー中央部の約9%の範囲を測光します。

[•] スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約3.8%を測光します。

[ ] 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。露出を明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することができます。補正できる範囲は、1/3段ステップで±2段です。

1 モードダイヤルを〈M〉以外の応用撮影ゾーンにする

2 露出表示を確認する

● シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を確認します。

明るく（プラス）補正

暗く（マイナス）補正

3 補正量を設定する

● 電源スイッチを〈⤻〉にして、ファインダー内または表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

● 〈◎〉の操作はシャッターボタン半押し中か、半押し後のタイマー（⏱4）作動中に行います。

● 露出補正を解除するときは、補正量の設定を〈▮〉の位置に戻します。

4 撮影する

● 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。

● 不用意に〈◎〉が動いて補正量が変わらないように注意してください。電源スイッチを〈ON〉の位置にすると安全です。

● 露出補正は、メニュー［📷 露出補正／AEB設定］でも行うことができます（p.102）。

MENU 露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用

1/3段ステップ±2段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これをAEB撮影といいます。

＊AEBは、Auto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

1 ［露出補正／AEB設定］を選ぶ

- ［ ］タブの［露出補正／AEB設定］を選び、〈SET〉を押します。

AEBレベル

2 AEBレベルを設定する

- 〈 〉を回すとAEBレベルが設定できます。
- 〈 〉を回すと露出補正量が設定できます。AEBと併用するときは、露出補正値を中心にAEB撮影されます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。
- ➡ メニューを終了すると、表示パネルに〈 〉とAEBレベルが表示されます。

3 撮影する

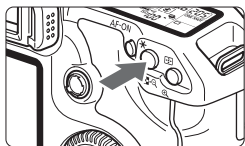
- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

AEB撮影の解除

- 手順1、2の操作でAEBレベルの表示を消します。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボ充電完了で自動解除されます。

- ドライブモードが〈□〉のときは、シャッターボタンを3回押して撮影します。〈□H〉〈□〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈 〉〈 2〉のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。
- ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。

✱ 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✱〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

2 〈✱〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

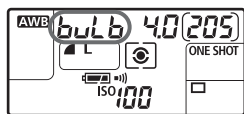
AEロックの効果

測光モード（p.100）	AFフレーム選択	
	自動選択	任意選択
◉*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
◌ ⊡ [ ]	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 シャッター速度を「buLb」にする

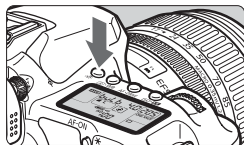
- 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回して「**buLb**」を選びます。
- 「**30"**」の次が「**buLb**」です。

露光経過時間

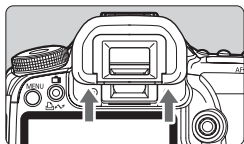
3 絞り数値を設定して撮影する

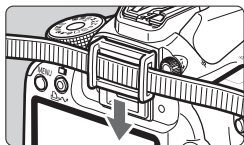
- 絞り数値は電源スイッチを〈⤴〉にし、〈◎〉を回して設定します。
- シャッターボタンを押している間、露光が行われます。
- ➡ 表示パネルの撮影可能枚数が、露光経過時間（秒）に変わります。

- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になることがあります。
- ［C.Fn II -1：**長秒時露光のノイズ低減**］を［1：**自動**］または［2：**する**］に設定すると、長秒時露光時に発生するノイズを軽減することができます（p.176）。
- バルブ撮影を行うときは、リモートスイッチRS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします。

☼ 表示パネルの照明

〈☼〉ボタンを押すたびに、表示パネルの照明が点いたり、消えたりします（⏱6）。バルブ撮影時は、シャッターボタン全押しで照明が消えます。

アイピースカバーを併用する

ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー（p.23）を使います。

1 アイカップを取り外す

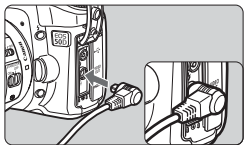
- アイカップの下側を押して取り外します。

2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。

リモートスイッチの取り付け方

リモートスイッチRS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラーTC-80N3（別売）など、N3タイプの端子を持つEOS用アクセサリーをカメラに取り付けて撮影することができます。

なお、アクセサリーの操作方法については、各アクセサリーの使用説明書を参照してください。

1 端子カバーを開ける

2 リモコン端子にプラグを取り付ける

- 図のように取り付けます。
- 取り外すときは、プラグの銀色の部分をつまんで引き抜きます。

ミラーアップ撮影 応用

セルフタイマー撮影や、リモートスイッチを使用した撮影でも、カメラブレ防止に十分な効果がありますが、超望遠レンズを使用した撮影のときや、近接（マクロ）撮影のときに、撮影時の機械的な振動（ミラーショック）が気になるときは、ミラーアップ撮影という方法を使います。

［C.Fn III -6：ミラーアップ撮影］を［1：する］に設定すると（p.180）、**ミラーアップ撮影ができます。**

1 ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がります。

2 もう一度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（タイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。タイマー作動中の10秒/2秒の間に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

- ［**1：する**］設定時に、ドライブモードが連続撮影に設定されていても、1 枚撮影になります。
- セルフタイマー〈〉または〈2〉を使用すると、10 秒後、または 2 秒後に撮影されます。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、リモートスイッチRS-80N3（別売）やタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします。

内蔵ストロボを使った撮影

E-TTL II 自動調光制御により、高精度で安定したストロボ撮影ができます。

かんたん撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

暗いときや日中逆光時に、**内蔵ストロボが自動的に上がって発光**します。（〈風景〉〈スポーツ〉〈ストロボ発光禁止〉を除く）

応用撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

明るさに関係なく**必要なときに〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げるだけ**でストロボ撮影ができます。内蔵ストロボは、手で押し下げて収納します。

P ：**カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときに選択します。**シャッター速度（1/250～1/60秒）と絞り数値は、自動的に決まります。

Tv ：**任意のシャッター速度（1/250秒～30秒）を設定したいときに選択します。**自動設定された絞り数値に対し、自動調光が行われます。

Av ：**任意の絞り数値を設定したいときに選択します。**設定した絞り数値に対し、自動調光が行われます。**シャッター速度は、その場の明るさに応じて、1/250秒～30秒の範囲で自動設定されます。**
暗いところでは、主被写体は自動調光で、背景は自動設定される低速シャッターの組み合わせで、ともに標準露出の雰囲気のある写真（自動スローシンクロ撮影）になります。
- シャッター速度が遅くなったときは、三脚の使用をおすすめします。
- シャッター速度を遅くしたくないときは、［**C.Fn I -7：Avモード時のストロボ同調速度**］を［**1：1/250-1/60秒自動**］または［**2：1/250秒固定**］に設定します（p.175）。

M ：**シャッター速度（1/250秒～30秒、バルブ）と絞り数値を任意に設定したいときに選択します。**設定した絞り数値に対し、自動調光が行われます。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。

A-DEP ：〈**P**〉と同じストロボ撮影結果になります。

内蔵ストロボの届く距離

[約・m]

絞り数値	ISO感度							
	100	200	400	800	1600	3200	H1:6400	H2:12800
F3.5	3.7	5.3	7.4	10.5	14.9	21	29.7	42
F4	3.3	4.6	6.5	9.2	13	18.4	26	36.8
F5.6	2.3	3.3	4.6	6.6	9.3	13.1	18.6	26.3

- 近距離側のストロボ撮影は、1mから行うことができます。
- レンズのフードを外し、被写体から1m以上離れてください。
- レンズ先端にフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、ストロボの光がさえぎられて、画面の下側が暗くなることがあります。なお、望遠レンズや大口径レンズを使用していて現象が改善されない場合は、EXシリーズスピードライト（別売）の使用をおすすめします。

MENU 赤目緩和機能を使う

ストロボ撮影する前に赤目緩和ランプを点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。

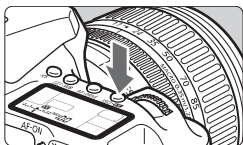
〈風景〉〈ストロボ発光禁止〉〈スポーツ〉以外の撮影モードで機能します。

- ［撮影1］タブの［**赤目緩和機能**］を選び、〈SET〉を押します。［**入**］を選び〈SET〉を押します。
- ストロボが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると赤目緩和ランプが点灯し、全押しすると撮影されます。

- 赤目緩和は、「写される人がランプを注視する」、「室内を明るくする」、「近づいて撮影する」と効果的です。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー下の表示が内側に向かって消灯していきます。この表示が消えてから撮影すると効果的です。

- 赤目緩和効果の度合いは、個人差があります。

ストロボ調光補正 応用

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量をカメラで補正することができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±2段です。

1 〈ISO・〉ボタンを押す（6）

プラス補正

マイナス補正

2 補正量を設定する

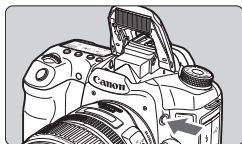
- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら、〈〉を回します。
- ストロボ調光補正を解除するときは、補正量の設定を〈〉の位置に戻します。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに〈〉が表示されます。

3 撮影する

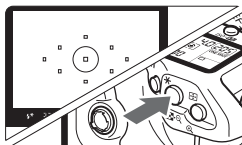
- ［C.Fn II -4：オートライティングオプティマイザ］（p.177）が働く設定になっていると、露出補正と調光補正の補正効果が小さくなることがあります。設定したとおりの効果を得たいときは、［3：しない］に設定してください。
- カメラ側と EX シリーズスピードライト側でともに調光補正を行ったときは、スピードライト側の設定が優先されます。EXシリーズスピードライト側で調光補正が行われていると、カメラ側で調光補正を行っても、カメラで設定した内容は撮影結果に反映されません。

- 設定した補正量は電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- EXシリーズスピードライト使用時も同じ操作で、カメラからスピードライトの調光補正ができます。

✱ FEロック撮影 応用

FE（Flash Exposure：フラッシュエクスポージャー）ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

1 〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げる

- シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に〈ϟ〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる

3 〈✱〉ボタンを押す（⏱16）

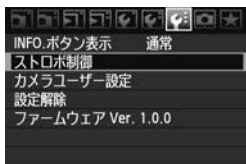
- ファインダーの中央に被写体を置いて、〈✱〉ボタンを押します。
- ➡ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量を記憶します。
- ➡ ファインダー内に一瞬「**FEL**」と表示され、〈ϟ✱〉が点灯します。
- 〈✱〉ボタンを押すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。

4 撮影する

- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。
- ➡ ストロボが発光し、撮影されます。

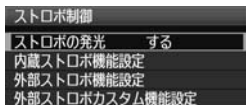
❗ 被写体までの距離が遠すぎて、撮影結果が暗くなるときは〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいて、再度手順2～4の操作をしてください。

MENU ストロボ制御 応用

内蔵ストロボと外部ストロボに対する設定を、メニュー画面から行うこともできます。なお、外部ストロボに関するメニューは、**カメラからの外部ストロボ機能設定に対応したEXシリーズスピードライト装着時**にのみ有効となります。

［ストロボ制御］を選ぶ

- ［🔧:］タブの［**ストロボ制御**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ ストロボ制御画面になります。

［ストロボの発光］について

- 通常は、［**する**］を選びます。
- **［しない］を選ぶと、内蔵／外部ストロボとも発光しません。**ストロボのAF補助光だけを使いたいときに選びます。

［内蔵ストロボ機能設定］について

- ［**発光モード**］は選択できません。
- ［**調光補正**］は、109ページと同じ設定ができます。
- ［**E-TTL II**］は、次ページの説明を参考にして設定してください。

● シンクロ設定

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、撮影終了直前にストロボが発光します。スローシンクロと組み合わせると、車のライトなどの軌跡が自然な感じで写ります。なお、後幕シンクロでは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回、ストロボが発光します。

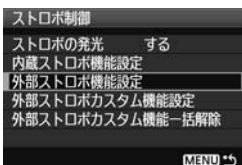
● E-TTL II

通常は、標準的なストロボ露出が得られる［**評価調光**］に設定します。

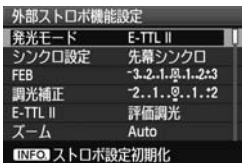
［**平均調光**］に設定すると、外部調光ストロボのように測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要な、上級者向けの設定です。

外部ストロボの設定について

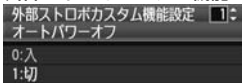
［**外部ストロボ機能設定**］と［**外部ストロボカスタム機能設定**］の設定を行います。設定内容については、**カメラからの外部ストロボ機能設定に対応したEXシリーズスピードライト**（例：430EX II）の使用説明書を参照してください。

ストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。

1 ［外部ストロボ機能設定］または［外部ストロボカスタム機能設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 設定できない項目は、暗く表示されます。

外部ストロボ機能設定

外部ストロボカスタム機能

2 外部ストロボの機能を設定する

- 項目を選び機能を設定します。操作方法は、カメラのメニュー機能の設定と同じです。
- ストロボ機能設定画面で表示される内容や、設定できる項目は、現在設定されている発光モードや、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。
- 〈INFO.〉ボタンを押してストロボ設定を初期化すると、外部ストロボと内蔵ストロボの設定が初期化されます。

外部ストロボの使用について

EOS用EXシリーズスピードライト

基本操作は内蔵ストロボ撮影同様、簡単です。

EXシリーズスピードライトをこのカメラに装着したとき、ストロボ撮影の自動調光制御のほぼすべては、このカメラによって行われます。つまり、「内蔵ストロボの代わりに大光量ストロボが外付けされたもの」とお考えください。

操作方法については、EXシリーズスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXシリーズスピードライトの全機能が使用できるAタイプカメラに属しています。

クリップオンタイプストロボ

マクロストロボ

- ストロボ機能設定（p.111）に対応していないEXスピードライト使用時は、［**ストロボ機能設定**］の内、［**調光補正**］［**E-TTL II**］の項目のみ設定できます。（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）
- ストロボのカスタム機能で、調光方式をTTL 自動調光にしている場合は、常時フル発光します。

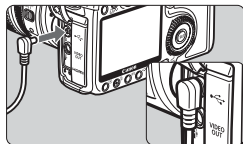
EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

- **EZ/E/EG/ML/TL スピードライトを､TTL またはA-TTL 自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**カメラの撮影モードを〈**M**〉（マニュアル露出)、または〈**Av**〉（絞り優先AE）に設定し、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を持つスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボを使った撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/250秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なるため、1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

シンクロ端子について

- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。端子には、コードの抜け落ちを防止するロックねじが付いています。
- シンクロ端子には極性はありません。シンクロコードの極性に関係なく、そのまま使用することができます。

ライブビュー撮影時の注意

汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行う場合は、［**ライブビュー機能設定**］の［**静音撮影**］を［**しない**］設定にしてください（p.128）。［**モード1**］、［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。

- 他社製の特定のカメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因となります。
- シンクロ端子に 250V 以上の電圧がかかるストロボを使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することもできます。

6

ライブビュー撮影

カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

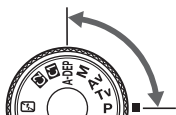
ライブビュー撮影は、被写体との距離が変わらない「静物撮影」に有効です。

カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがありますので、三脚などの使用をおすすめします。

リモートライブビュー撮影について

付属ソフトウェアのEOS Utilityがインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

ライブビュー撮影の準備 応用

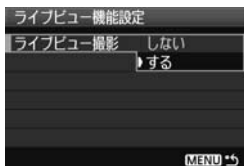
ライブビュー撮影ができるようにカメラを設定します。

1 撮影モードを設定する

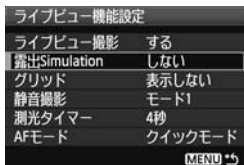
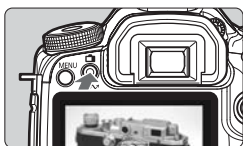
- 応用撮影ゾーンの撮影モードを設定します。
- **かんたん撮影ゾーンでは、ライブビュー撮影できません。**

2 [ライブビュー機能設定]を選ぶ

- [🔧:]タブの[**ライブビュー機能設定**]を選び、〈SET〉を押します。

3 [ライブビュー撮影]を選ぶ

- 〈◎〉を回して[**ライブビュー撮影**]を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して[**する**]を選び、〈SET〉を押します。

4 そのほかの機能を設定する

- 必要に応じて、下記の機能を設定します。それぞれのページを参照してください。
  - ・露出Simulation（p.117）
  - ・グリッド（p.119）
  - ・静音撮影（p.128）
  - ・測光タイマー（p.119）
  - ・AFモード（p.121）

5 ライブビュー映像を表示する

- 〈 〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- もう一度〈 〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えて通常の撮影状態に戻ります。

【露出Simulation】について

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして画像を表示します。［**しない**］［**する**］の内容は、それぞれ次のようになっています。

- **しない**

  ライブビュー映像が見やすいよう、標準的な明るさで表示されます。

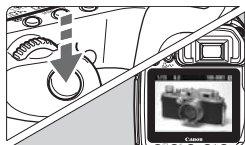
- **する**

  実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

- ライブビュー撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- ライブビュー撮影全般に関する注意事項は、129、130ページにまとめて記載しています。

撮影する 応用

1 AFでピントを合わせる

- 〈AF-ON〉ボタンを押します。
- ➡ 設定されている AF モードでピント合わせが行われます（p.121）。

2 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。

ライブビュー表示中の機能操作について

- ライブビュー表示中もファインダー撮影時と同様に、ボタン操作による機能設定の変更や、再生操作を行うことができます。
- 〈AF・DRIVE〉ボタンや〈ISO・☒〉ボタンなどを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、設定を変更することができます。なお、測光モードは設定に関係なく、ライブビュー撮影用の評価測光に固定されます。
- 絞り込みボタンを押すと、被写界深度を確認することができます。また、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。
- 連続撮影時は、1枚目の露出で2枚目以降が撮影されます。
- 〈A-DEP〉は、〈P〉と同じ撮影結果になります。

● 〈MENU〉ボタンを押すとメニュー画面が表示され、メニュー機能の設定を行うことができます。もう一度〈MENU〉ボタンを押すと、ライブビュー表示に戻ります。なお、［**ダストデリートデータ取得**］、［**センサークリーニング**］、［**設定解除**］、［**ファームウェア**］を選んだときは、ライブビュー撮影が終了します。

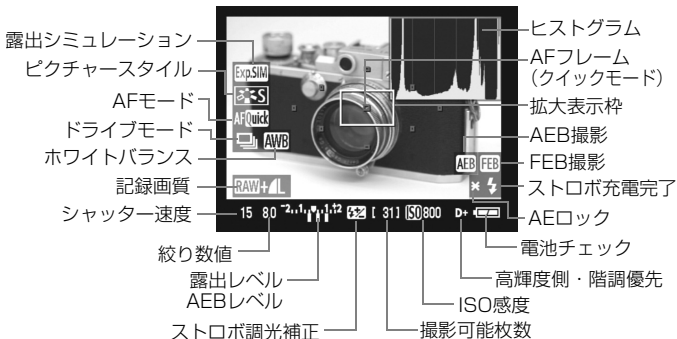
ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安 ［約・枚］

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+23℃）	180	170
低温（0℃）	140	130

● 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパックBP-511A使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
● 連続してライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：約1時間です（フル充電のBP-511A使用時）。
● AF撮影すると、撮影可能枚数が少なくなります。

● 映像の視野率は、約100%です。
● カメラを操作しない状態が続くと、メニュー［**オートパワーオフ**］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.44）。なお、設定が［**切**］のときは、約30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
● グリッド（格子線）を表示することができます。［**ライブビュー機能設定**］の［**グリッド**］で、［**グリッド1**#］または［**グリッド2**#］を設定します。
● AEロックの保持時間を変えたいときは、［**ライブビュー機能設定**］の［**測光タイマー**］で変更します。
● ストロボ撮影すると、シャッターが2回切れた音がして撮影されます（撮影枚数は1枚です）。
● 付属のビデオケーブルや、別売のHDMIケーブルを使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.141、142）。

情報表示について

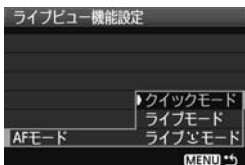
● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに、情報表示内容が切り換わります。

〈温度〉マークについて

- 直射日光下など暑い場所でライブビュー撮影を行うと、〈温度〉マーク（カメラ内部の温度上昇に関する注意）が画面に表示されることがあります。そのままライブビュー撮影を継続すると、撮影画像の画質が低下する恐れがありますので、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- ハードディスクタイプのカード使用時に〈温度〉マークが表示された状態で、ライブビュー撮影を継続し、さらにカメラ内部の温度が上昇すると、ライブビュー撮影が自動的に終了します。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなります。

- ヒストグラムと〈Exp.SIM〉は、［**露出Simulation**］を［**する**］（p.117）に設定したときに表示されます。〈Exp.SIM〉が点滅するときは、低輝度、高輝度条件下で映像が適切な明るさで表示されていないことを示しています。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。
- ストロボ使用時、バルブ設定時は、〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で（参考）表示されます。なお、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

AFでピントを合わせる応用

AFモードを選ぶ

AFモードには、[クイックモード]、[ライブモード]（p.123）、[ライブ顔モード]（顔優先／p.124）があります。なお、厳密にピントを合わせたいときは、映像を拡大して、手動でピント合わせを行ってください（p.127）。

AFモードを選ぶ

- [ライブビュー機能設定]の[AFモード]で選びます。
- ライブビュー映像表示中に、〈AF・DRIVE〉ボタンを押すと、〈ダイヤル〉でAFモードを選ぶこともできます。

クイックモード

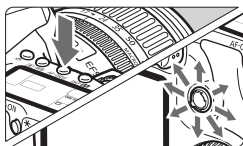
ファインダー撮影時と同じAF方式（p.84、86）で、専用のAFセンサーを使ってワンショットAF（p.84）でピント合わせを行います。

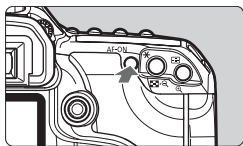
狙ったところに素早くピントを合わせることができますが、**AF中はライブビュー表示が一時的に中断されます。**

AFフレーム

拡大表示枠

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈ライブビュー〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 画面内の小さい枠がAFフレームで、大きい枠が拡大表示枠（p.120）です。

2 AFフレームを選ぶ

- 〈AF・DRIVE〉ボタンを押したあと、〈⁜〉を操作してAFフレームを選びます。
- 〈⁜〉を同じ方向に押すと、任意選択と自動選択が交互に切り換わります。

3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、〈AF-ON〉ボタンを押します（ボタンは押したままにします）。
- ➡ ライブビュー映像が消えてミラーが下がり、AFが行われます。
- ➡ ピントが合うと「ピピッ」と電子音が鳴り、ライブビュー表示に戻ります。
  ピント合わせに使用したAFフレームが赤く表示されます。

4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（p.118）。

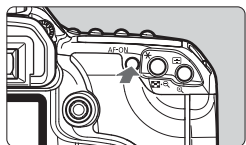
- AF中は撮影できません。ライブビュー映像が表示された状態で撮影してください。
- リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）のレリーズボタンでは、AFできません。

ライブモード

撮像素子を使ってピント合わせを行います。ライブビュー表示のままAFできますが、**「クイックモード」よりもAFに時間がかかります。**また、「クイックモード」よりもピントが合いにくいことがあります。

AFフレーム

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈 〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- AFフレーム〈□〉が表示されます。
- AF フレームは、ピントを合わせたい場所に〈 〉で動かすことができます（画面の一番端までは動きません）。〈 〉をまっすぐに押すと、画面中央に戻ります。

2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、〈AF-ON〉ボタンを押します（ボタンは押したままにします）。
- ➡ AFが行われ、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームが赤色に変わります。

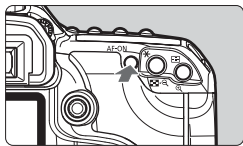
3 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（p.118）。

ライブ㋑（顔優先）モード

ライブモードと同じAF方式で、人の顔を検知してピント合わせを行います。写される人は、顔をカメラに向けてください。

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈◘〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 顔を検知すると、ピント合わせを行う〈⁚⁚〉が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは〈⁚⁚〉が表示されます。〈✣〉でピントを合わせる顔に〈⁚⁚〉を合わせます。

2 ピントを合わせる

- 〈AF-ON〉ボタンを押すと、〈⁚⁚〉の顔にピントを合わせます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームが赤色に変わります。
- 顔が検知できないときは、AF フレーム〈□〉を中央に固定してAFが行われます。

3 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（p.118）。

- 顔優先のAFフレームが、顔の一部にだけかかることがあります。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい、大きい」、「顔が明るすぎる、暗すぎる」、「顔が横や斜めを向いている」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。

- 〈✣〉をまっすぐに押すと、ライブモード（p.123）に切り換わり、〈✣〉でAFフレームを移動することができます。もう一度まっすぐに押すと、ライブ（顔優先）モードに戻ります。
- 画面の端のほうで検知された顔は AF できないため、〈[ ]〉が灰色で表示されます。その状態で〈AF-ON〉ボタンを押すと、画面中央（AFフレーム〈□〉）でピント合わせが行われます。

ライブモードとライブ（顔優先）モードに関するおことわり

AFの動作について

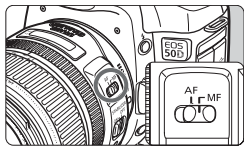
- ピント合わせには、多少時間がかかります。
- ピントが合った状態でも、〈AF-ON〉ボタンを押すと再度ピント合わせが行われます。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 映像がちらついて（フリッカーで）ピントが合いにくいときは、一旦ライブビュー撮影を終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。映像のちらつきがなくなったことを確認してからAFを行ってください。
- ライブモードで〈⊕〉ボタンを押すと、AF フレームの部分が拡大表示されますが、拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。なお、AFの速度は、通常表示と拡大表示で異なることがあります。
- ライブモードの通常表示でAFを行ったあと、拡大表示すると正確にピントが合っていないことがあります。
- ライブモードのときは、〈⊕〉ボタンを押しても拡大表示されません。

- AF補助光は投光されません。
- リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）のレリーズボタンでは、AFできません。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面など、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 横縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯などの照明下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 光を強く反射している被写体
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合（おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 近づく、または遠ざかる被写体
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合

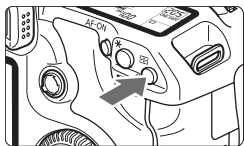
手動でピントを合わせる 応用

映像を拡大表示して、手動ピント合わせを行います。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

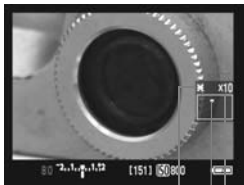
- レンズのフォーカスリングを回して、大まかにピントを合わせておきます。

拡大表示枠

2 ピントを合わせたい場所に拡大表示枠を移動する

- 〈✣〉を操作して拡大表示枠を移動します。
- 〈✣〉をまっすぐに押すと、画面中央に戻ります。

3 映像を拡大する

- 〈⊕〉ボタンを押します。
- ➡ 枠内が拡大表示されます。
- 〈⊕〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→ 5倍 → 10倍 → 通常表示 ┐（通常表示から5倍へ戻る）

AEロック
拡大表示位置
拡大率

4 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈⊕〉ボタンを押して通常表示にします。

5 撮影する

静音撮影する 応用

［ライブビュー機能設定］の［静音撮影］は、下記の説明を参考にして設定します。

● **モード1**

通常撮影よりも作動音が静かになります。連続撮影を行うこともできます。なお、高速連続撮影は、約5.8コマ/秒になります。

● **モード2**

シャッターボタンを全押しすると1枚だけ撮影し、全押しを続けている間、カメラの作動を停止します。半押し状態に戻すとカメラが作動しますので、撮影する瞬間の音を最小限に抑えることができます。なお、連続撮影にしていても1枚撮影になります。

● **しない**

TS-Eレンズを使用して**上下方向のシフト**を行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ずこの設定にしてください。［**モード1**］、［**モード2**］に設定すると、適正露出にならなかったり、露出ムラになったりします。

シャッターボタンを全押しすると、シャッターが2回切れた音がして撮影されます（撮影枚数は1枚です）。

- ［**モード1**］、［**モード2**］に設定していても、ストロボ撮影を行うと、［**しない**］と同じ動きになります。
- 汎用ストロボを使用する場合は、［**しない**］に設定してください。（［**モード1**］、［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。）

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 太陽など、極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所でメニュー［**Ý 液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、ライブビュー映像に色ノイズが発生することがあります。ただし、この色ノイズは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

撮影結果について

- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影画像の画質が低下する恐れがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。特に、長秒時露光を行うときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。
- 高温・高ISO感度・長時間露光の条件でライブビュー撮影を行うと、画像にノイズや色ムラが発生することがあります。
- 拡大表示のまま撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。なお、拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値が赤く表示されます。
- 拡大表示で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

カスタム機能について

- ライブビュー撮影では、設定が無効になるカスタム機能があります（p.173）。
- ［C.Fn II -4：オートライティングオプティマイザ］（p.177）が、［3：しない］以外のときは、暗めに露出補正しても明るく表示されることがあります。

レンズとストロボについて

- 超望遠レンズに搭載されている、フォーカスプリセット機能は使用できません。
- 内蔵／外部ストロボ使用時にFEロックはできません。また、外部ストロボ使用時にモデリング発光はできません。

7

画像の再生

撮影した画像をカメラで再生・消去する方法や、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明します。

他の機器で撮影・記録された画像について

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

▶ 画像を再生する

1枚表示

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

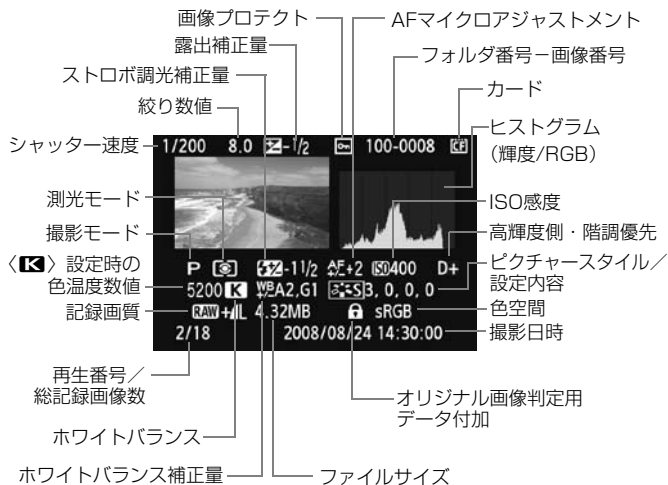
2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

1枚表示
1枚表示＋記録画質
ヒストグラム表示
撮影情報表示

3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

INFO. 撮影情報の内容

* RAW+JPEGの設定で撮影した画像は、JPEG画像のファイルサイズが表示されます。

● ハイライト警告表示について

メニュー［▶ ハイライト警告表示］を［する］に設定すると、露出オーバーで白飛びした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

● AFフレーム表示について

メニュー［▶ AFフレーム表示］を［する］に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数同時に表示されることがあります。

● ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、メニュー［▶: ヒストグラム］で行います。

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例

暗い成分が多い

普通の明るさ

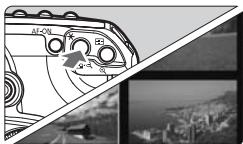
明るい成分が多い

［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

▶ 見たい画像を素早く探す

一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

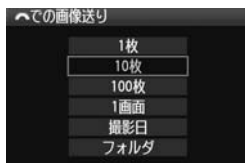
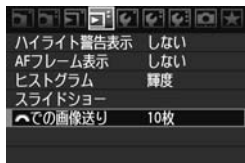
見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚、または9枚の画像を表示させることができます。

1 インデックス表示にする

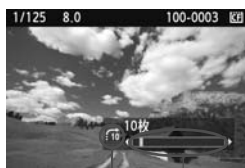
- 画像を再生した状態で、〈⊞·Q〉ボタンを押します。
- ➡ 4枚インデックス表示になります。選択されている画像に青色の枠が付きます。
- もう一度〈⊞·Q〉ボタンを押すと、9枚インデックス表示になります。

➡
➡
2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して青色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈⊕〉ボタンを押すと、青色の枠で選んだ画像が拡大表示されます。
（9枚→4枚→1枚）

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

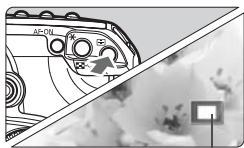
1枚表示、インデックス表示、拡大表示のときに、〈〉を回すと画像を飛ばして表示することができます。

1 ジャンプ方法を選ぶ

- メニュー［ での画像送り］で［1枚/10枚/100枚/1画面/撮影日/フォルダ］の中から、希望するジャンプ方法を選びます。
- インデックス表示のときに画面単位でジャンプしたいときは、［1画面］を選びます。
- 撮影した日の日付単位でジャンプしたいときは［撮影日］、フォルダ単位でジャンプしたいときは［フォルダ］を選びます。

ジャンプ方法
再生位置

2 画像送りをする

- 画像を再生した状態で〈〉を回します。
- ➡ 設定した方法でジャンプ表示が行われます。
- ➡ 画面右下にジャンプ方法と、現在再生している画像の位置が表示されます。

🔍／🔍 拡大して見る

撮影した画像を、約1.5倍〜10倍に拡大して表示することができます。

拡大表示位置

1 画像を拡大する

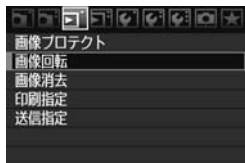
- 画像を再生した状態で、〈🔍〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示されます。
- 〈🔍〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈⊞･🔍〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、1枚表示まで連続的に小さくなります。

2 表示位置を移動する

- 〈✣〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。

- 拡大表示中に〈◎〉（または〈⚙〉）を回すと、拡大率、拡大位置が固定された状態で、画像を切り換える（設定されている画像送りの方法でジャンプ表示する）ことができます。
- 撮影直後の画像表示中からの拡大表示はできません。

回転させる

画像が表示される向きを変えたいときに行います。

1 ［画像回転］を選ぶ

- ［▶̇］タブの［**画像回転**］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

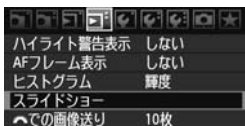
- 〈◎〉を回して回転する画像を選びます。
- インデックス表示にして選ぶこともできます。

3 画像を回転する

- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了し、メニューに戻ります。

- メニュー［🔧̇ **縦位置画像回転表示**］を［**する📷🖥**］（p.146）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、メニュー［🔧̇ **縦位置画像回転表示**］を［**する📷🖥**］に設定します。

MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動的に連続再生します。

1 ［スライドショー］を選ぶ

- ［▶:］タブの［**スライドショー**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スライドショーの設定画面が表示されます。

再生する枚数

2 再生する画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して図の項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して再生内容を選び、〈SET〉を押します。

項目	再生内容
全画像	カード内のすべての画像を再生します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある画像を再生します。
日付	選んだ撮影日の画像を再生します。

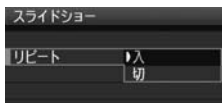
［フォルダ］と［日付］の選択

- 〈◎〉を回して［**フォルダ**］、［**日付**］のいずれかを選びます。
- 〈INFO. 〉が明るく表示された状態で、〈INFO.〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回してフォルダ、または日付を選び、〈SET〉を押します。

3 再生間隔とリピートの設定をする

- 〈◎〉を回して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**再生間隔**］と、［**リピート**］（繰り返し再生）の設定を行い、〈MENU〉ボタンを押します。

［**再生間隔**］

［**リピート**］

4 スライドショーを開始する

- 〈◎〉を回して［**スタート**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ［**画像読み込み中...**］が数秒間表示されたあと、スライドショーが始まります。
- 一時停止したいときは、〈SET〉を押します。
- 一時停止中は画像の左上に［ ⏸ ］が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、再開します。

5 スライドショーを終了する

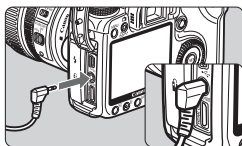
- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し設定画面に戻ります。

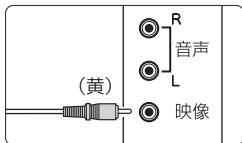
- 一時停止中に〈◎〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフは機能しません。
- 画像により、表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、141ページを参照してください。

テレビで見る

撮影した画像を、テレビなどで見ることができます。ケーブルを接続／取り外すときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。

* 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。

HD（ハイビジョン）非対応のテレビで見る

1 付属のビデオケーブルをカメラに接続する

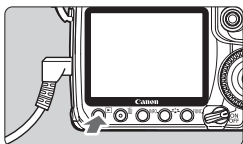
- カメラの〈VIDEO OUT〉端子に、ビデオケーブルを接続します。
- プラグの根元までしっかり差し込みます。

2 テレビにビデオケーブルを接続する

- ビデオケーブルを、テレビの映像入力端子に接続します。

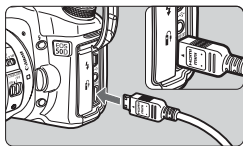
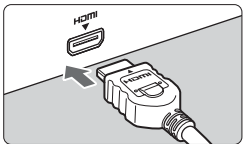
3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

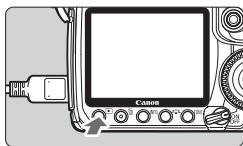
5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

- テレビ方式と異なるビデオ出力方式が設定されていると、画像が正しく表示されません。そのときは、メニュー［ビデオ出力方式］で方式を切り換えてください。
- 付属のビデオケーブル以外は使用しないでください。画像が表示されないことがあります。

HD（ハイビジョン）対応のテレビで見る

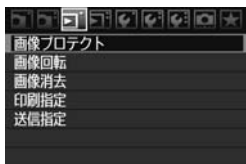
別売のHDMIケーブルHTC-100が必要です。

1 HDMIケーブルをカメラに接続する
- カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、HDMIケーブルを接続します。
- プラグの〈**▲HDMI MINI**〉マークが、カメラの前面に向くようにして、カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

2 テレビにHDMIケーブルを接続する
- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す
- ➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

- カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、他の機器からの出力を入力しないでください。故障の原因となります。
- テレビによっては、撮影した画像を再生できないことがあります。その場合は、付属のビデオケーブルで接続してください。
- 〈VIDEO OUT〉端子と〈**HDMI OUT**〉端子は、同時に使用できません。

〈⊶〉保護する（プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないよう、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- ［▶̇］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクト画面になります。

プロテクト表示

2 画像を選んでプロテクトをかける

- 〈◎〉を回してプロテクトをかける画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面の上に〈⊶〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈⊶〉が消えます。
- 他にプロテクトをかけたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像プロテクトが終了し、メニューに戻ります。

カードを初期化すると（p.43）**、プロテクトされた画像も消去されます。**

- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（p.144）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

🗑 消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.143）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚ずつ消去

1 消去したい画像を再生する

2 〈🗑〉ボタンを押す

● 画面の下に消去メニューが表示されます。

3 消去する

➡ ［**消去**］を選び〈SET〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

MENU チェック〈√〉を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することもできます。メニュー［**▶ 画像消去**］で［**選択して消去**］を選びます。〈▦·Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈SET〉で消去したい画像に〈√〉を付けたあと、〈🗑〉ボタンを押します。

MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することもできます。メニュー［**▶ 画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

再生に関する機能の設定を変更する

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを調整することができます。

1 ［液晶の明るさ］を選ぶ

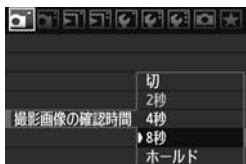
- ［♥:］タブの［**液晶の明るさ**］を選び、〈SET〉を押します。

2 明るさを調整する

- グレーチャートを参考にして、〈◎〉を回して調整し、〈SET〉を押します。
- 〈FUNC.〉ボタンでも「液晶の明るさ」画面を表示させることができます。

撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.134）で確認することをおすすめします。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないようにするときは［**切**］に設定します。

1 ［撮影画像の確認時間］を選ぶ

- ［◘'］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

［**ホールド**］に設定すると、オートパワーオフの設定時間まで表示されます。

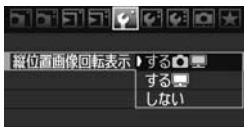
MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定

縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときや、パソコンの画面で見るときに、被写体が横向きで表示されないように、自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。

1 ［縦位置画像回転表示］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈SET〉を押します。

2 回転表示を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

- **する📷🖥**
  カメラで再生するときと、パソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき
- **する🖥**
  パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき
- **しない**
  自動回転させたくないとき

［**しない**］で撮影した画像は、［**する**］に設定して再生しても、自動回転表示されません。

- 撮影直後に表示される画像は自動回転表示されません。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコン画面で自動回転しないときは、使用しているソフトウェアが回転表示に対応していません。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

8

撮像素子の清掃

　このカメラは、撮像素子の前面（ローパスフィルター）に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットを搭載しています。
　また、ダストデリートデータ（ゴミ消し情報）を画像に付加する機能により、除去しきれなかったゴミを、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動的に消去することができます。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

　撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。撮像素子の自動清掃後に汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

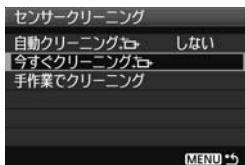
セルフ クリーニング センサー ユニットの作動中でも、シャッターボタンを半押しすると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。

MENU 撮像素子の自動清掃

このカメラは、電源スイッチを〈ON/⤴〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する

1 [センサークリーニング] を選ぶ

- [🔧:] タブの [センサークリーニング] を選び、〈SET〉を押します。

2 [今すぐクリーニング] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [今すぐクリーニング] を選び、〈SET〉を押します。
- メッセージ画面で [OK] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます。途中、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを垂直に置いて清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても、効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、[今すぐクリーニング] が一時的に選べなくなります。

自動清掃を行わないようにする

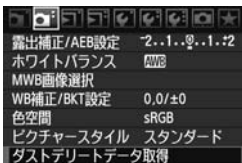
- 手順2で [自動クリーニング] を選び、[しない] を選びます。
- ➡ 電源スイッチを〈ON/⤴〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

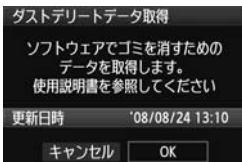
MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

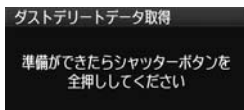
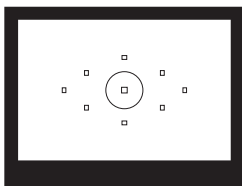
通常は、セルフ クリーニング センサー ユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができます。しかし、除去できなかったゴミがある場合に備え、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

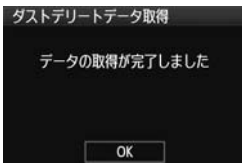
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回します。

ダストデリートデータを取得する

1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

- ［撮影2］タブの［ダストデリートデータ取得］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押すと、撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。途中、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20 ～ 30cm の距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。

- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
  ［OK］を選ぶと、メニューに戻ります。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、［OK］を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、付属ソフトウェアによる自動ゴミ消し処理については、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量はごく小さなものですので、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

> 未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、付属ソフトウェア使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

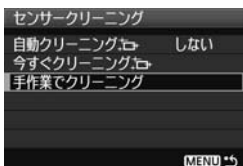
MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

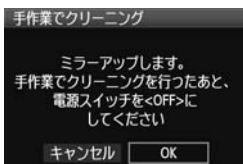
撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理受付窓口にお申し付けください。

清掃を始める前にレンズを取り外してください。

1 ［センサークリーニング］を選ぶ

- ［🔧:］タブの［**センサークリーニング**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［手作業でクリーニング］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**手作業でクリーニング**］を選び、〈SET〉を押します。

3 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。
- 表示パネルに「**CLEA n**」が点滅します。

4 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。

- 電源には、ACアダプターキットACK-E2（別売）の使用をおすすめします。
- 電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。なお、バッテリーグリップを装着して、電源に単3形電池を使用しているときは、手作業で撮像素子の清掃はできません。

- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  ・電源スイッチを〈OFF〉にする
  ・電池室ふたを開ける
  ・カードスロットカバーを開ける
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因となります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

画像の印刷とパソコンへの転送

● **印刷**（p.154）

カメラとプリンターを直接つないで、カードに記録されている画像を印刷することができます。このカメラは、ダイレクトプリント標準規格の「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応しています。

● **画像を印刷指定する／DPOF**（p.163）

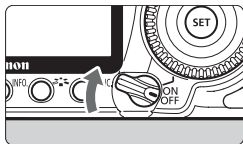
カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital（デジタル） Print（プリント） Order（オーダー） Format（フォーマット））に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

● **パソコンに画像を送る**（p.167）

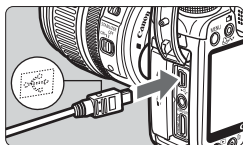
カメラとパソコンをつないで、カメラを操作するだけで、カードに記録された画像をパソコンに送ることができます。

印刷の準備をする

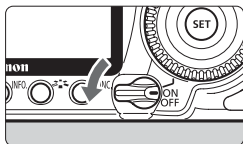
ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います**。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

- 詳しくはプリンターの使用説明書を参照してください。

3 カメラとプリンターを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈⭠〉マークが、カメラの前面に向くようにして、カメラの〈⭠〉端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる

5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈〉が表示されます。
- ➡ 〈〉ボタンのランプが青色に点灯します。

- 「CPダイレクト」または「Bubble　Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- カメラとプリンターの接続には、付属のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。どのような問題が発生しているかは、次の操作で確認できます。
  1. 〈▶〉ボタンを押して画像を再生する
  2. 〈SET〉を押す
  3. 印刷設定画面で［**印刷**］を選ぶ

  液晶モニターにエラーメッセージが表示されます（p.162）。

- このカメラで撮影したRAW画像も印刷できます。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電した電池で約3時間印刷できます。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキットACK-E2（別売）の使用をおすすめします。

印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

プリンター接続表示

1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈〉が表示されていることを確認します。
- 〈〉を回して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ 印刷設定画面になります。

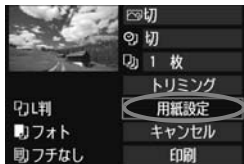
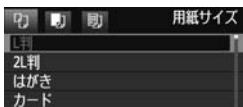
印刷設定画面

印刷効果を設定します（p.158）
日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します
何枚印刷するかを設定します
印刷範囲を設定します（p.161）
用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
手順1の画面に戻ります
印刷を開始します
設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

＊ プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。

3 ［用紙設定］を選ぶ

- ［**用紙設定**］を選び〈SET〉を押します。

➡ 用紙設定画面になります。

用紙サイズの設定

● プリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈SET〉を押します。
➡ 用紙タイプの設定画面になります。

用紙タイプの設定

● プリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈SET〉を押します。
● キヤノン製プリンターで、純正用紙を使うときは、プリンターの使用説明書で使用できる用紙を確認してください。
➡ レイアウトの設定画面になります。

レイアウトの設定

● 印刷レイアウトを選び〈SET〉を押します。
➡ 印刷設定画面に戻ります。

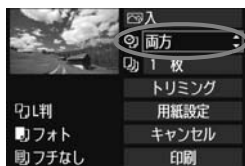
フチあり	用紙の周りに余白を付けて印刷します。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 **35面配置**	DPOF（p.163）で印刷指定した画像を20画像、または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します。 ・［**20面配置**］では、撮影情報*を印刷します。
標準設定	プリンターの機種や設定により、印刷レイアウトが異なります。

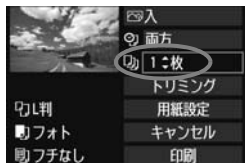
* Exif 情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。

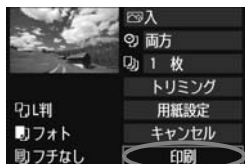
4 印刷効果を設定する

- 必要に応じて設定します。設定しないときは、手順5に進みます。
- **表示される内容は、プリンターの機種により異なります。**
- 画面右上の項目を選び、〈SET〉を押します。印刷効果を選び〈SET〉を押します。
- 〈INFO.〉の横に〈▤〉が表示されているときは、印刷効果の調整を行うこともできます（p.160）。

項目	印刷内容
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
切	自動補正は行われません。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
NR	画像のノイズ低減処理が行われ印刷されます。
B/W 白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W 冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W 温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	画像本来の色やコントラストを活かした印刷が行われます。自動色調整は行われません。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かい印刷調整を行うことができます。
標準設定	プリンターの機種により、印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。

* **印刷効果の設定を変更すると、画面左上に表示されている画像に設定内容が反映されます。ただし、実際の印刷結果とは多少異なる場合があるため、目安としてとらえてください。160ページの［明るさ補正］と［レベル補正］も同様です。**

5 日付／画像番号印刷を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈⏲〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷内容を選び〈SET〉を押します。

6 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈⧉〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷枚数を選び〈SET〉を押します。

7 印刷する

- ［**印刷**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡〈⎙〉ボタンの青いランプが点滅して、印刷が始まります。

- 同じ設定で別の画像を印刷するときは、画像を選んで、青いランプが点灯した〈⎙〉ボタンを押すだけで「かんたん印刷」ができます。なお、「かんたん印刷」のときは、印刷枚数は指定できません（1枚ずつ印刷）。また、トリミングの設定は反映されません。
- トリミングについては、161ページを参照してください。
- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定した印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容については、プリンターの使用説明書を参照してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 画像の傾き補正（p.161）を行うと、印刷に時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押して［**OK**］を選びます。

印刷効果の調整について

158ページの手順4で項目を選び、〈INFO.〉の横に〈 〉が表示されているときに、〈INFO.〉ボタンを押すと、印刷効果の調整を行うことができます。調整できる（表示される）内容は、手順4の選択内容により異なります。

● **明るさ補正**

画像の明るさを調整することができます。

● **レベル補正**

［**手動**］を選ぶと、ヒストグラムの分布を変更して、画像の明るさとコントラストを調整することができます。

レベル補正画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、〈 〉の位置が切り換わります。〈 〉を回すと、シャドウレベル（0～127）、ハイライトレベル（128～255）を任意に調整することができます。

● **明るく補正**

逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。［**入**］に設定すると、顔が明るく印刷されます。

● **赤目補正**

ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった（赤目現象が発生した）画像で効果的です。［**入**］に設定すると、目の赤みが緩和されて印刷されます。

- ［**明るく補正**］と［**赤目補正**］の効果は、画面で確認できません。
- ［**詳細設定**］を選ぶと、［**コントラスト**］［**色の濃さ**］［**色あい**］［**カラーバランス**］を調整することができます。なお、［**カラーバランス**］の調整は、〈 〉で行います。BはブルーAはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- ［**初期化**］を選ぶと、設定した印刷効果の内容がすべて初期状態に戻ります。

トリミング（印刷範囲）の設定

傾き補正

画像を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷することができます。**トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。**トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

● 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、［**用紙設定**］の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈〉〈・〉ボタンを押すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

〈〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

〈INFO.〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

画像の傾きを補正する

〈〉を回すと、0.5度単位±10度の範囲で画像を回転させることができます。回転を行うと、画面上の〈〉が青色に変わります。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

➡ 印刷設定画面に戻ります。

● 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認することができます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。
- トリミングは、液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングを行うと、枠が正しく表示されないことがあります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

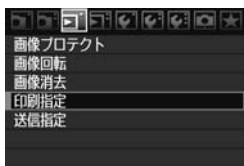
用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

画像を印刷指定する／DPOF

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する

1 ［印刷指定］を選ぶ

➡ ［▶̇］タブの［**印刷指定**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 ［設定］を選ぶ

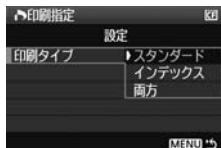
● ［**設定**］を選び〈(SET)〉を押します。

3 項目の内容を設定する

● ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。

● 項目を選び〈(SET)〉を押します。内容を選び〈(SET)〉を押します。

［**印刷タイプ**］

［**日付**］

［**画像番号**］

項目	設定		内容
印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入		［**入**］にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。
	切		
画像番号	入		［**入**］にすると、画像番号を付けて印刷します。
	切		

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の［**画像選択**］［**■指定**］［**全画像**］で、印刷する画像を指定します。

- ［**日付**］［**画像番号**］を［**入**］にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF に対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

- RAW画像は印刷指定できません。
- ［**インデックス**］に設定したときは、［**日付**］と［**画像番号**］を同時に［**入**］にできません。

印刷する画像を指定する

● 画像選択

画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈⊞・Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈⊕〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

指定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

[スタンダード] [両方]

〈SET〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈◎〉を回すと、その画像の枚数指定を最大99枚にすることができます。

[インデックス]

〈SET〉を押すと、表示されている画像がインデックス印刷用の画像として指定され、画面左上に〈✓〉が付きます。

● ■指定

指定を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、解除を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● 全画像

指定を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、解除を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- 全画像指定を行っても、RAW画像は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を、400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

印刷指定画像のダイレクトプリント

印刷指定した画像を、PictBridge対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

- 154ページを参照してください。
  『カメラとプリンターを接続する』の手順5まで行います。

2 [⊡˙] タブの [印刷指定] を選ぶ

3 [印刷] を選ぶ

- [**印刷**] は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

4 [用紙設定] の内容を設定する (p.156)

- 印刷効果 (p.158) は必要に応じて設定します。

5 [OK] を選ぶ

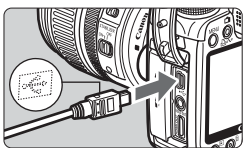
- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- [**フチあり**] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。

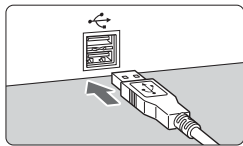
- [**レベル補正**] の [**手動**] は選択できません。
- 印刷を中止したあとに、残りの画像を印刷するときは、[**再開**] を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
  - ・再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき／インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき／印刷を中断したときに、カードの空き容量が少なかったとき
- 印刷中に問題が発生したときは、162ページを参照してください。

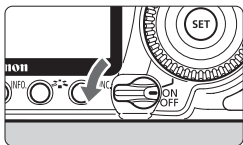
パソコンに画像を送る

カメラとパソコンをつないで、カメラからの操作でカードに記録された画像をパソコンに送ることができます。この機能をダイレクト画像転送といいます。

カメラとパソコンを接続する前に、必ず付属ソフトウェア（EOS DIGITAL Solution Disk／CD-ROM）をパソコンにインストールしてください。
付属ソフトウェアのインストール方法については、別紙のCD-ROMガイドを参照してください。

画像転送の準備

1 カメラとパソコンを接続する

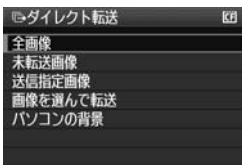
- カメラの電源を切った状態で接続します。
- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときはプラグの〈USB〉マークが、カメラの前面に向くようにして、カメラの〈USB〉端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

2 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

- パソコンに、プログラムを選択する画面が表示されたときは、［EOS Utility］を選びます。
- ➡ パソコンに［EOS Utility］の画面が表示され、カメラの液晶モニターにダイレクト転送画面が表示されます。

ダイレクト転送画面表示中は、撮影できません。

- ［**EOS Utility**］の画面が表示されないときは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。

パソコンに画像を送る

パソコンに送られた画像は、［**マイピクチャ**］フォルダ、または［**ピクチャ**］フォルダに、撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。

● 全画像

カードに入っている、すべての画像をパソコンに送ります。

- ［**全画像**］を選び〈⎙〉ボタンを押します。
- ➡ 〈⎙〉ボタンの青いランプが点滅して、画像転送が始まります。
- ➡ 転送が終わると点灯します。

［**全画像**］以外の項目は、次のようになっています。〈⎙〉ボタンを押すと画像転送が始まります。

● **未転送画像**

パソコンに転送されていない画像を、カメラが自動的に選んで転送します。

● **送信指定画像**

パソコンに送る画像を指定して、まとめて転送します。画像の指定方法は、170ページを参照してください。

● **画像を選んで転送**

画像を1枚ずつ選んでパソコンに転送します。終了するときは〈MENU〉ボタンを押します。

● **パソコンの背景**

画像を選び、転送するとパソコンのデスクトップの背景（壁紙）として表示されます。終了するときは〈MENU〉ボタンを押します。

- 〈⎙〉ボタンを押す代わりに〈SET〉を押すと、確認画面が表示されます。［OK］を選んで〈SET〉を押すと転送が始まります。
- RAW画像は、壁紙として転送できません。

MENU パソコンに送る画像を指定する

［ ］タブの［**送信指定**］で、パソコンに転送する画像をあらかじめ指定することができます。

169ページで［**送信指定画像**］を選ぶと、送信指定した画像を転送することができます。

● 画像選択

画像を1枚ずつ選んで指定します。〈SET〉を押すと、表示されている画像が指定され、画面左上に〈✓〉が付きます。

指定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

● 指定

指定を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が送信指定されます。なお、解除を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の送信指定がすべて解除されます。

● 全画像

指定を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が送信指定されます。なお、解除を選ぶと、カード内の送信指定がすべて解除されます。

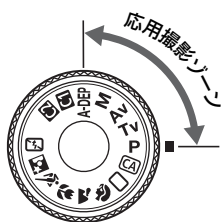
他のカメラで送信指定した画像を、このカメラに入れて再度送信指定しないでください。送信指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、送信指定できないことがあります。

- 記録画質RAW+JPEGで撮影した画像を送信指定すると、“1枚”としてカウントされます。ダイレクト転送を行うと、RAW画像、JPEG画像ともにパソコンに転送されます。
- 999画像以上を一度に転送するときは、ダイレクト転送画面で［**全画像**］を選んでください（p.168）。

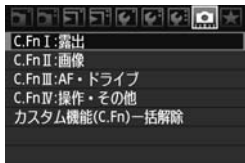
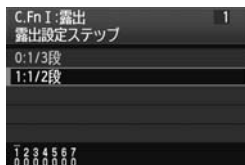
10

カメラをカスタマイズする

カスタム機能でカメラの機能を細かく変更することができます。また、現在使用しているカメラの設定内容を、モードダイヤルの〈C1〉、〈C2〉に登録することができます。

なお、この章で説明する機能は、応用撮影ゾーンで設定、機能します。

MENU カスタム機能の設定方法 応用

1 [] を選ぶ

- 〈〉を回して［］を選びます。

2 グループを選ぶ

- 〈〉を回してC.Fn I～IVのいずれかを選び、〈SET〉を押します。

3 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈〉を回して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。

4 設定を変更する

- 〈〉を回して設定内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。
- 手順2～4を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。
- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。

5 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 手順2の画面に戻ります。

カスタム機能の設定をすべて解除するときは

手順2で［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

カスタム機能の一括解除を行っても、［**C.Fn IV -5：フォーカシングスクリーン**］の設定内容は保持されます。

MENU カスタム機能一覧 応用

C.Fn I：露出

1	露出設定ステップ	p.174
2	ISO感度設定ステップ	
3	ISO感度拡張	
4	ブラケティング自動解除	
5	ブラケティング順序	p.175
6	セイフティシフト	
7	Avモード時のストロボ同調速度	

C.Fn II：画像

1	長秒時露光のノイズ低減	p.176
2	高感度撮影時のノイズ低減	
3	高輝度側・階調優先	p.177
4	オートライティングオプティマイザ	

C.Fn III：AF・ドライブ

1	AF測距不能時のレンズ動作	p.178
2	レンズ・AFストップボタンの機能	
3	AFフレーム選択方法	p.179
4	スーパーインポーズの表示	
5	AF補助光の投光	
6	ミラーアップ撮影	p.180
7	AFマイクロアジャストメント	

C.Fn IV：操作・その他

1	シャッター /AF-ONボタン	p.181
2	AF-ON/AEロックボタン入替	
3	SETボタンの機能	p.182
4	Tv/Av値設定時のダイヤル回転	
5	フォーカシングスクリーン	p.183
6	オリジナル画像判定用データの付加	p.184
7	FUNC.ボタンの機能	

番号に □ が付いたカスタム機能は、ライブビュー撮影時は機能しません（設定が無効となります）。C.Fn III -2は、「2, 5」のみ有効です。

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

C.Fn I：露出

C.Fn I -1　露出設定ステップ

0：1/3段

1：1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEBなどの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示は図のようになります。

C.Fn I -2　ISO感度設定ステップ

0：1/3段

1：1段

C.Fn I -3　ISO感度拡張

0：しない

1：する

ISO感度を設定するときに、「**H1**」（ISO6400相当）と「**H2**」（ISO12800相当）が選択できるようになります。

C.Fn I -4　ブラケティング自動解除

0：する

電源スイッチ〈**OFF**〉、カメラ設定初期化を行うと、AEB、WB-BKTの設定が解除されます。また、ストロボ充電（完了）でAEBの設定が解除されます。

1：しない

電源スイッチ〈**OFF**〉を行っても、AEB、WB-BKTの設定が解除されないようになります。（ストロボ充電完了でAEBは一旦解除されますが、設定したAEBレベルは記憶されています。）

C.Fn I -5　ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、ホワイトバランスブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

0：0→−→+

1：−→0→+

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
− ：マイナス補正	− ：ブルー寄りに補正	− ：マゼンタ寄りに補正
+ ：プラス補正	+ ：アンバー寄りに補正	+ ：グリーン寄りに補正

C.Fn I -6　セイフティシフト

0：しない

1：する（Tv/Av値）

シャッター優先AE（Tv）、絞り優先AE（Av）撮影時に機能します。被写体の明るさが急に変化して、適切な自動露出値が得られない場合、設定値をカメラが自動的に変更して、適正露出で撮影することができます。

C.Fn I -7　Avモード時のストロボ同調速度

0：自動

1：1/250-1/60秒自動

絞り優先AEモードのストロボ撮影で、手ブレを少なくしたいときに設定します（夜景などを背景にした暗い場所では、被写体の背景が暗くなります）。

2：1/250秒固定

絞り優先AEモードのストロボ撮影で、望遠レンズ使用時の手ブレを少なくしたいときに設定します（夜景などを背景にした暗い場所では、1設定時よりも被写体の背景が暗くなります）。

C.Fn II：画像

C.Fn II -1　長秒時露光のノイズ低減

0： **しない**

1： **自動**

　露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この［**自動**］で十分な効果が得られます。

2： **する**

　露光時間１秒以上で撮影された画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

- 撮影後、低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。この場合、低減処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 2設定時、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、液晶モニターに何も表示されません（ライブビュー表示は行われません）。

C.Fn II -2　高感度撮影時のノイズ低減

　画像に発生するノイズを低減します。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。ノイズの程度に応じて設定を変更します。

0： **標準**

1： **弱め**

2： **強め**

3： **しない**

2設定時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。

C.Fn II -3　高輝度側・階調優先

0：しない

1：する

高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

1設定時は、通常撮影時より、低輝度部のノイズが若干増えることがあります。

1設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～3200になります。
また、表示パネルとファインダー内には、〈**D+**〉（ダイナミックレンジ拡張）が表示されます。

C.Fn II -4　オートライティングオプティマイザ

撮影結果が暗い場合や、コントラストが低い場合に、明るさ・コントラストをカメラが自動的に補正します。好みに応じて設定を変更します。かんたん撮影ゾーンでは、［**標準**］が自動設定されています。

なお、RAW画像は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで設定した内容を反映させることができます。

0：標準

1：弱め

2：強め

3：しない

- マニュアル露出のときは機能しません。
- 撮影条件によっては、ノイズが増える場合があります。

C.Fn III：AF・ドライブ

C.Fn III -1　AF測距不能時のレンズ動作

AFを行ってピントが合わないときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。

0：サーチ駆動する

1：駆動しない

再測距を行って大ボケ状態になることを防止することができます。特に大ボケ状態になりやすい、超望遠レンズ使用時に有効です。

C.Fn III -2　レンズ・AFストップボタンの機能

*AFストップボタンは、手ブレ補正機能付き超望遠レンズに装備されています。

0：AFストップ

1：AFスタート

押している間だけAFが作動します。押している間は、カメラ側操作によるAF作動は行いません。

2：AEロック

押すとAEロックします。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。

3：測距点 任意→自動/自動→中央

AFフレーム任意選択時に押すと、押している間だけAFフレーム自動選択になります。AIサーボAF作動中に、任意選択したAFフレームで被写体に追従できなくなったときに有効です。AFフレーム自動選択時に押すと、押している間だけ中央のAFフレームが選択されます。

4：ワンショット⇄AIサーボ

ワンショットAF時に押すと、押している間だけAIサーボAFになり、AIサーボAF時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。移動・停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

5：手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正機能スイッチが〈**ON**〉のときに、AFストップボタンを押すと、手ブレ補正機能が作動します。シャッターボタンを半押ししても、手ブレ補正機能は作動しません。

C.Fn III -3　AFフレーム選択方法

0：通常

〈⊞〉ボタンを押したあと、〈✣〉でAFフレームを選びます。

1：マルチコントローラーダイレクト

最初に〈⊞〉ボタンを押さずに、〈✣〉で直接AFフレームを選ぶことができます。〈⊞〉ボタンを押すと自動選択になります。

2：サブ電子ダイヤルダイレクト

最初に〈⊞〉ボタンを押さずに、〈◎〉で直接AFフレームを選ぶことができます。〈⊞〉ボタンを押しながら〈⌒〉を回すと、露出補正を行うことができます。

C.Fn III -4　スーパーインポーズの表示

0：する

1：しない

ピントが合ったときに、ファインダー内のAFフレームが赤く点灯しません。点灯がわずらわしいときに設定します。

ただし、AFフレーム選択時は点灯します。

C.Fn III -5　AF補助光の投光

内蔵ストロボによるAF補助光、EOS用外部ストロボのAF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

1：しない

AF補助光は投光されません。

2：外部ストロボ使用時のみ投光する

EOS用外部ストロボ使用時は、必要に応じてAF補助光が投光されます。内蔵ストロボからAF補助光は投光されません。

EOS用外部ストロボのカスタム機能で、［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、C.Fn III -5-0,2に設定しても、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

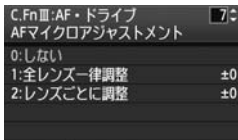
C.Fn III -6　ミラーアップ撮影

0：しない

1：する

　望遠レンズを使用した撮影や、近接（マクロ）撮影で、ミラーの作動によるカメラブレを防止することができます。ミラーアップ撮影については、106ページを参照してください。

C.Fn III -7　AFマイクロアジャストメント

通常はこの機能で調整を行う必要はありません。必要な場合のみ調整を行ってください。なお、調整により、適切なピントで撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。なお、ライブビュー撮影のライブモード、ライブ顔モードのAF調整はできません。

　AFによるピント合焦位置を微調整することができます。調整範囲は、±20ステップ（－：前方向／＋：後方向）です。

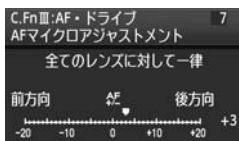
　1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放 FNo. によって異なります。**「調整→撮影（◢L）→確認」を繰り返してピント調整を行ってください。**

　1または2を選び〈INFO.〉ボタンを押すと、登録画面になります。

〈🗑〉ボタンを押すと、登録した内容を一括解除することができます。

0：しない

1：全レンズ一律調整

　使用するレンズにかかわらず、常に設定量分シフトして合焦します。

2：レンズごとに調整

　レンズの種類（銘柄）ごとに調整を行い、カメラに最大20本まで登録することができます。登録されたレンズを使用すると、設定量分シフトして合焦します。

　すでに20本登録されているときは、上書き消去するレンズを選びます。

- 実際に撮影する環境下で調整を行うことをおすすめします。より適確なピント調整を行うことができます。
- 2設定時に、エクステンダーを使用しているときは、「レンズ+エクステンダー」の組み合わせで登録されます。
- カスタム機能の一括解除（p.172）を行っても、登録した調整内容は保持されますが、設定は［0：しない］になります。

C.Fn IV：操作・その他

C.Fn IV -1　シャッター /AF-ONボタン

0：測光・AF開始

1：測光・AF開始/AFストップ

AF中に〈AF-ON〉ボタンを押すと、測距を中止します。

2：測光開始/測光・AF開始

移動／停止を繰り返す被写体の撮影などに有効です。AIサーボAFを設定しておくと、〈AF-ON〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にして、シャッターチャンスを待つことができます。

3：AEロック/測光・AF開始

ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈AF-ON〉ボタンで測光・AF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出決定）することができます。

4：測光・AF開始/無効

〈AF-ON〉ボタンは機能しません。

C.Fn IV -2　AF-ON/AEロックボタン入替

0：しない

1：する

〈AF-ON〉ボタンと〈✱/🔍〉ボタンの機能が入れ替わります。

1設定時に、再生画像をインデックス表示や縮小表示にするときは、〈AF-ON〉ボタンで行います。

C.Fn IV -3　SETボタンの機能

よく使う機能を、〈SET〉に割り当てることができます。撮影準備状態で〈SET〉を押します。

0：通常（無効）

1：記録画質選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターに記録画質設定画面が表示されます。〈⚙〉、〈◎〉を回して記録画質を選び、〈SET〉を押します。

2：ピクチャースタイル選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイルの選択画面が表示されます。〈⚙〉または〈◎〉を回してスタイルを選び、〈SET〉を押します。

3：メニュー表示

〈MENU〉ボタンと同じになります。

4：画像の再生

〈▶〉ボタンと同じになります。

5：クイック設定画面

〈SET〉を押すと、クイック設定画面が表示されます。〈✣〉で機能を選び、〈◎〉または〈⚙〉を回して設定を変更します。

なお、ライブビュー撮影時には機能しません。

C.Fn IV -4　Tv/Av値設定時のダイヤル回転

0：通常

1：設定方向を反転

シャッター速度、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。

マニュアル露出時は〈⚙〉〈◎〉、それ以外の撮影モードでは〈⚙〉による設定方向が反転します。マニュアル露出時と、露出補正時の〈◎〉による設定方向が同じになります。

C.Fn IV -5　フォーカシングスクリーン

フォーカシングスクリーンを交換したときは、適切な露出で撮影するため、使用するスクリーンのタイプに応じて、設定変更を行ってください。

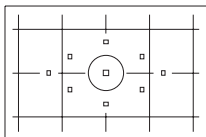
0：Ef-A

1：Ef-D

2：Ef-S

フォーカシングスクリーンの特性について

Ef-A：標準プレシジョンマット
購入時のカメラに組み込まれている標準フォーカシングスクリーンです。ファインダーの明るさと、手動ピント合わせのしやすさをバランスよく両立しています。

Ef-D：方眼プレシジョンマット
Ef-Aに方眼線を引いたフォーカシングスクリーンです。構図の垂直・水平決めを楽に行うことができます。

Ef-S：スーパープレシジョンマット
Ef-Aよりもピントの山をつかみやすくしたフォーカシングスクリーンです。手動ピント合わせを主にされているかたに有効です。

スーパープレシジョンマットEf-Sとレンズの開放絞り数値について

- F2.8以上の明るいレンズに最適化されています。
- F2.8より暗いレンズを使用すると、標準スクリーンEf-A装着時よりもファインダーが暗くなります。

- カスタム機能一括解除を行っても、設定内容は保持されます。
- EOS 50Dの標準フォーカシングスクリーンはEf-Aですので、購入時の状態はC.Fn IV -5-0に設定されています。
- フォーカシングスクリーンの交換方法については、フォーカシングスクリーンの使用説明書を参照してください。
- C.Fn IV -5の設定は、カメラユーザー設定の登録内容（p.186）に含まれません。

C.Fn IV -6　オリジナル画像判定用データの付加

0： しない

1： する

撮影画像に、その画像がオリジナルであるか否かを判定するためのデータが自動的に付加されます。判定用データが付加された画像を撮影情報表示（p.133）で再生すると、〈🔒〉が表示されます。

オリジナル画像の判定には、オリジナルデータセキュリティキットOSK-E3（別売）が必要です。

オリジナルデータセキュリティキットOSK-E3の画像暗号化・復号機能には、対応していません。

C.Fn IV -7　FUNC.ボタンの機能

〈FUNC.〉ボタンを押したときに表示される、メニュー機能を変更することができます。

0： 液晶の明るさ

メニュー［**Ұ: 液晶の明るさ**］画面が表示されます。

1： 記録画質選択

メニュー［**◘˙ 記録画質**］画面が表示されます。

2： 露出補正／AEB設定

メニュー［**◘: 露出補正／AEB設定**］画面が表示されます。

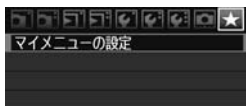
3： ◎での画像送り

メニュー［**▶: ◎での画像送り**］画面が表示されます。

4： ライブビュー機能設定

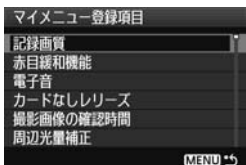
メニュー［**Ұ: ライブビュー機能設定**］画面が表示されます。

MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、6項目まで登録することができます。

1 [マイメニューの設定] を選ぶ

- [★] タブの [**マイメニューの設定**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [登録] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**登録**] を選び、〈SET〉を押します。

3 登録する

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選び、〈SET〉を押すと登録されます。
- 操作を繰り返して6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順 2 の画面に戻ります。

マイメニューの設定について

手順2で表示される [**並べ替え**] などの内容は、以下のようになっています。

- **並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。[**並べ替え**] を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。[⬍] が表示された状態で〈◎〉を回して並び順を変え、〈SET〉を押します。

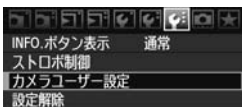
- **マイメニューから表示**

  [**する**] に設定すると、メニュー画面を表示したときに [★] タブから表示されます。

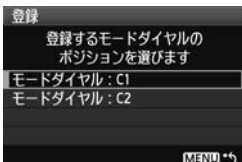
- **削除、全項目削除**

  登録した項目を削除することができます。[**削除**] を選ぶと1項目ずつ削除、[**全項目削除**] を選ぶと登録内容がすべて削除されます。

MENU カメラユーザー設定の登録 応用

　撮影モードやメニュー、カスタム機能など、今カメラに設定されているほとんどの内容を、モードダイヤルの〈C1〉、〈C2〉にカメラユーザー設定として登録することができます。

1 ［カメラユーザー設定］を選ぶ

- ［♥:］タブの［**カメラユーザー設定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［登録］を選ぶ

3 登録する

- 〈◎〉を回して登録するポジションを選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 使用中のカメラの設定内容がモードダイヤルのC＊に登録されます。

カメラユーザー設定の［登録解除］について

　手順2で［**登録解除**］を選ぶと、登録前の初期設定に戻すことができます。操作方法は手順3と同じです。

- マイメニューの設定内容は、登録されません。
- モードダイヤルが〈C1〉、〈C2〉のポジションのときは、メニューの［♥: **設定解除**］と［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］は、選択できません。

- モードダイヤルが〈C1〉、〈C2〉のポジションのときも、ドライブモードやメニューなどの設定を変更することができます。なお、その変更内容を登録したいときは、上記のカメラユーザー設定の登録操作を行ってください。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、〈C1〉、〈C2〉に登録されている撮影モードを確認することができます（p.188）。

11

資料

撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。また、章の最後には索引を設け、知りたいことが見つけやすいようになっています。

INFO. 設定状態の確認

撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、「カメラ設定の内容」の画面と、「撮影機能の設定状態」の画面を表示することができます。

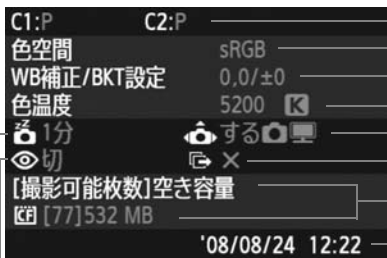
「撮影機能の設定状態」が表示されているときは、液晶モニターを見ながら撮影機能の設定を行うことができます。

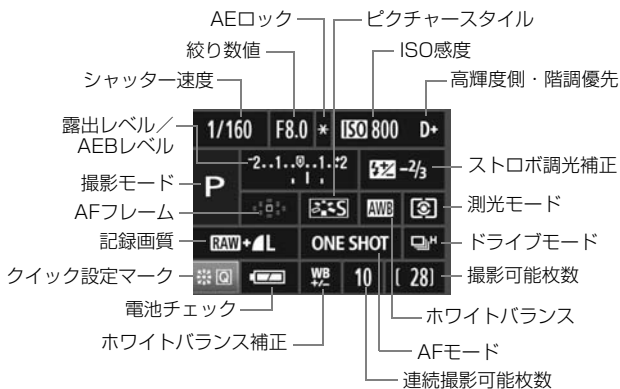
「カメラ設定の内容」と「撮影機能の設定状態」を表示する

- 〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ ボタンを押すたびに表示が変わります。

どちらか1つだけを表示する

- ［𝐘:］タブの［**INFO. ボタン表示**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［**カメラ設定**］または［**撮影機能**］を選び、〈(SET)〉を押します。

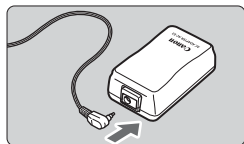
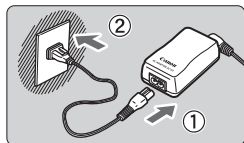
カメラ設定の内容

* ワイヤレスファイルトランスミッターWFT-E3使用時に、転送失敗画像があるときにのみ表示されます。

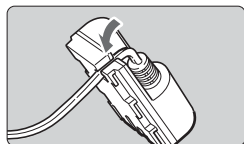
撮影機能の設定状態

- 〈✣〉をまっすぐに押すと、クイック設定画面（p.38）になります。
- 〈ISO・⚡±〉、〈AF・DRIVE〉、〈◎・WB〉、〈▤〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈⚙〉または〈◎〉で設定を行うことができます。AFフレームは〈✣〉で選択することもできます。

「撮影機能の設定状態」が表示された状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに「撮影機能の設定状態」が表示されます。解除するときは、〈INFO.〉ボタンを押して「撮影機能の設定状態」以外が表示された状態で電源を切ります。

家庭用電源を使用する

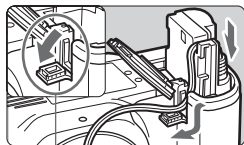
ACアダプターキットACK-E2（別売）を使うと、家庭用電源を使用して電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 DCカプラーのプラグを接続する

- DCカプラーのプラグを、ACアダプターのソケットに接続します。

2 電源コードを接続する

- 電源コードをACアダプターに接続します。
- プラグをコンセントに差し込みます。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

3 コードを溝にはめ込む

- DC カプラーのコードを傷つけないように、ていねいにはめ込みます。

DCカプラーコード
通し部

4 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DC カプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DC　カプラーをロック位置までしっかりと入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。

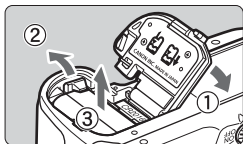
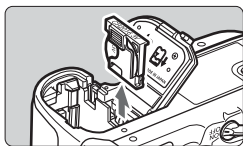
カメラの電源スイッチを〈ON〉または〈⤶〉にしたままで、電源コードの抜き差しを行わないでください。

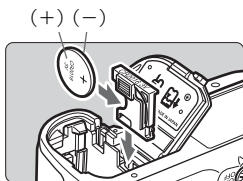
日付／時計機能用電池を交換する

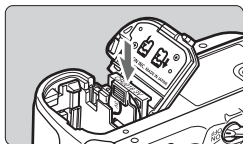
日付/時計機能用電池（バックアップ電池）の電池寿命は約5年です。電池を交換したときに、日付/時刻がリセットされるようになったら、新しいCR2016リチウム電池を次の手順で交換してください。

日付/時刻が初期化されますので、必ず再設定してください。

1 電源スイッチを〈OFF〉にする

2 電池を取り出す

3 電池ホルダーを取り外す

4 電池を入れ換える

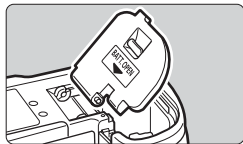
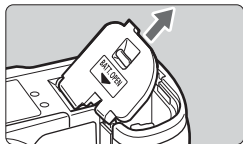
- ＋ーを正しく合わせて入れます。

5 電池ホルダーを入れる

- そのあと、電池を入れて、ふたを閉じます。

 日付/時計機能用電池は、必ずCR2016リチウム電池を使用してください。

バッテリーグリップを使う

ここでは、バッテリーグリップBG-E2を、このカメラで使う際の補足説明を行っています。ここに書かれている『電池室ふた着脱方法』と『撮影可能枚数の目安』以外の説明は、バッテリーグリップBG-E2の使用説明書を参照してください。

バッテリーグリップBG-E2Nをお使いの方は、BG-E2Nの使用説明書を参照してください。

電池室ふた着脱方法

- カメラを机の上などに置いて、落とさないようしっかり持ちます。
- 電池室ふたを開け、斜め方向に引いて取り外します。
- 取り外した電池室ふたは、バッテリーグリップに収納できます。
- 電池室ふたを取り付けるときは、取り外したときと同じ斜めの向きで、電池室ふたのヒンジをカメラに差し込みます。

撮影可能枚数の目安

常温（+23℃）／低温（0℃） ［約・枚］

電源	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
バッテリーパック BP-511A×2	1600 / 1360	1280 / 1080
単3形アルカリ乾電池	400 / 90	300 / 70
ライブビュー撮影時 BP-511A×2	360 / 280	340 / 260

メニュー機能一覧

撮影1（赤）

		参照頁
記録画質	L／L／M／M／S／S RAW／SRAW1／SRAW2	60
赤目緩和機能	切／入	108
電子音	入／切	－
カードなしレリーズ	する／しない	29
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	145
周辺光量補正	する／しない	76

撮影2（赤）

露出補正／AEB設定	1/3段ステップ、±2段	102
ホワイトバランス	AWB／☀／／☁／／／ϟ／／ K（2500～10000）	71
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	72
WB補正/BKT設定	WB補正：ホワイトバランス補正 WB-BKT：ホワイトバランスブラケティング	74 75
色空間	sRGB／Adobe RGB	82
ピクチャースタイル	Sスタンダード／Pポートレート／ L風景／Nニュートラル／F忠実設定／ Mモノクロ／1ユーザー設定1～3	65 ～ 70
ダストデリートデータ取得	ゴミ消し処理するためのデータを取得	149

再生1（青）

画像プロテクト	画像の保護	143
画像回転	画像の縦横回転	138
画像消去	画像の消去	144
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	163
送信指定	パソコンに送信する画像を指定	170
外部メディアへのバックアップ	WFT-E3（別売）経由、外部メディア使用時に表示	－

□ の項目は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。

再生2（青）

		参照頁
ハイライト警告表示	しない／する	133
AFフレーム表示	しない／する	133
ヒストグラム	輝度／RGB	134
スライドショー	再生内容／再生間隔／リピートを設定して自動再生	139
での画像送り	1枚／10枚／100枚／1画面／撮影日／フォルダ	136

機能設定1（黄）

オートパワーオフ	1分／2分／4分／8分／15分／30分／切	44
縦位置画像回転表示	する／する／しない	146
カード初期化	記録内容を初期化して消去	43
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	80
フォルダ選択	フォルダの作成と選択	78
WFTの設定	WFT-E3（別売）装着時に表示	−
記録機能とメディア選択	WFT-E3（別売）経由、外部メディア使用時に表示	−

機能設定2（黄）

液晶の明るさ	7段階明るさ調整	145
日付/時刻	日付（年/月/日）/時刻（時/分/秒）の設定	42
言語	25言語	42
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	141
センサークリーニング	自動クリーニング：する／しない	148
	今すぐクリーニング	148
	手作業でクリーニング	151
ライブビュー機能設定	ライブビュー撮影／露出Simulation／グリッド／静音撮影／測光タイマー／AFモード	116

* EOS 40Dで使用していたWFT-E3をEOS 50Dで使用するためには、WFT-E3用ファームウェアのバージョンアップが必要です。

機能設定3（黄）

		参照頁
INFO.ボタン表示	通常／カメラ設定／撮影機能	188
ストロボ制御	ストロボの発光／内蔵ストロボ機能設定／外部ストロボ機能設定／外部ストロボカスタム機能設定／外部ストロボカスタム機能一括解除	111
カメラユーザー設定	モードダイヤルのC1、C2に現在のカメラ設定を登録	186
設定解除	カメラ設定初期化／著作権情報の消去	45
ファームウェア	ファームウェア変更時に選択	－

カスタム機能（橙）

C.Fn I ：露出	カメラの機能を細かく設定する	174
C.Fn II ：画像		176
C.Fn III：AF・ドライブ		178
C.Fn IV：操作・その他		181
カスタム機能（C.Fn）一括解除	カスタム機能をすべて解除	172

★ マイメニュー（緑）

マイメニューの設定	よく使うメニュー機能やカスタム機能を登録	185

撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン								応用撮影ゾーン				
		□							CA	P	Tv	Av	M	A-DEP
記録画質	JPEG	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	RAW	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	RAW + JPEG	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	手動設定									○	○	○	○	○
ピクチャースタイル	スタンダード	●			●	●	●	●	○	○	○	○	○	○
	ポートレート		●						○	○	○	○	○	○
	風景			●					○	○	○	○	○	○
	ニュートラル									○	○	○	○	○
	忠実設定									○	○	○	○	○
	モノクロ								○	○	○	○	○	○
	ユーザー設定									○	○	○	○	○
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	Adobe RGB									○	○	○	○	○
ホワイトバランス	オートWB	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	プリセットWB									○	○	○	○	○
	マニュアルWB									○	○	○	○	○
	色温度指定									○	○	○	○	○
	WB補正									○	○	○	○	○
	WBブラケティング									○	○	○	○	○
オートライティングオプティマイザ		●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○		○
AF	ワンショット		●	●	●		●			○	○	○	○	●
	AIサーボ					●				○	○	○	○	
	AIフォーカス	●						●	●	○	○	○	○	
	AFフレーム選択 自動	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●
	AFフレーム選択 任意									○	○	○	○	
	AF補助光	●	●		●		●		●	○	○	○	○	○

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン								応用撮影ゾーン				
		[□]	[ポートレート]	[風景]	[クローズアップ]	[スポーツ]	[夜景ポートレート]	[ストロボ発光禁止]	CA	P	Tv	Av	M	A-DEP
測光方式	評価測光	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	部分測光									○	○	○	○	○
	スポット測光									○	○	○	○	○
	中央部重点平均測光									○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト								○*1	○				
	露出補正								○*2	○	○	○		○
	AEB									○	○	○	○	○
	AEロック									○	○	○		○
	被写界深度確認									○	○	○	○	○
ドライブ	1枚撮影	●		●	●		●	●	○	○	○	○	○	○
	高速連続撮影					●				○	○	○	○	○
	低速連続撮影		●						○	○	○	○	○	○
	セルフタイマー10秒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	セルフタイマー2秒									○	○	○	○	○
内蔵ストロボ	自動発光	●	●		●		●		○					
	手動発光								○	○	○	○	○	○
	発光禁止			●		●		●	○					
	赤目緩和	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○
	FEロック									○	○	○	○	○
	ストロボ調光補正								○*2	○	○	○	○	○
ライブビュー撮影										○	○	○	○	○

*1：58ページ『②背景をぼかす／くっきりさせる』の機能です。
*2：58ページ『③写真を暗くする／明るくする』の機能です。

故障かな？と考える前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源

付属の充電器で電池が充電できない

- キヤノン純正のバッテリーパック BP-511A、BP-514、BP-511、BP-512を使用してください。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.26）。
- 電池を充電してください（p.24）。
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください（p.26）。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください（p.29）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、数秒間はアクセスランプが点灯／点滅します。カードへの画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使ってください（p.24）。
- 何度も繰り返し使用した電池で消耗が早いときは、新しい電池をお買い求めください。

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、メニュー［**Ý オートパワーオフ**］を［**切**］にしてください。

撮影

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.29）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.29、144）。
- ワンショット AF でピント合わせしたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.35、88）。

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターにゴミやほこりが付いているときは、眼鏡ふきや、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.31）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.34、35）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にして撮影してください。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、30ページ、または201ページを参照してください。

カメラを振ると音がする

- 内蔵ストロボを上げるための機構がわずかに動くためで、故障ではありません。

ライブビュー撮影ができない

- ライブビュー撮影を行うときは、メモリーカードを使用してください(マイクロドライブなどのハードディスクタイプのカードの使用はおすすめできません)。ハードディスクタイプのカードは、メモリーカードよりも使用可能温度が低いため、ハードディスクを保護する機能が作動して、ライブビュー撮影が一時的にできなくなることがあります。カメラ内部の温度が下がると、ライブビュー撮影ができるようになります（p.120）。

内蔵ストロボが発光しない

- 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

画像の確認・操作

画像を消去できない

- 画像にプロテクトがかかっていると消去できません（p.143）。

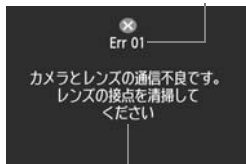
撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.42）。

テレビに画像が表示されない

- ビデオケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.141）。
- ビデオ出力方式（NTSC/PAL）をテレビと同じ方式に設定してください（p.194）。
- カメラに付属のビデオケーブルを使用してください（p.141）。

エラー表示

エラー番号

原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

エラー状態から復帰させるときは、電源スイッチの〈OFF〉→〈ON〉、または電池の出し入れを行ってください。

エラー02（カードのトラブル）が表示されたときは、カードの抜き差し、または初期化で正常に戻ることがあります。

頻繁にエラー画面が表示されるときは故障ですので、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	➔ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用する、カメラ・レンズの点検・修理（p.13、16、裏表紙）
02	カードに問題があります。カードを交換してください
	➔ カード抜き差し、カード交換、カード初期化（p.29、43）
04	カードがいっぱいになったため、記録できませんでした。カードを交換してください
	➔ カード交換、不要画像の消去、カード初期化（p.29、144、43）
05	内蔵ストロボの自動ポップアップを阻害しました。電源スイッチを〈OFF〉→〈ON〉してください
	➔ 電源スイッチ操作（p.27）
06	セルフクリーニングセンサーユニットが壊れています。サービスセンターで修理してください
	➔ 電源スイッチ操作、カメラの点検・修理（p.27、裏表紙）
10, 20 30, 40 50, 60 70, 80	撮影できません。電源スイッチの〈OFF〉→〈ON〉、またはバッテリーを入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作、電池出し入れ、純正レンズの使用、カメラ・レンズの点検・修理（p.27、26、裏表紙）

システム図

アイピースエクステンダー
EP-EX15
ラバーフレームEb
視度補正レンズE
アイカップEb
アングルファインダーC
フォーカシング
スクリーン
Ef-D Ef-S
ST-E2
220EX
430EX II
580EX II
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
主な付属品
フォーカシング
スクリーン Ef-A
ワイドストラップ
EW-EOS50D
日付/時計機能用
CR2016リチウム電池
バッテリーパック
BP-511A
バッテリーチャージャー
CG-580
バッテリーグリップ
BG-E2N
バッテリーマガジン
BGM-E2
ACアダプター
AC-E2
DCカプラー
DR-400
ACアダプターキット
ACK-E2
バッテリーパック
BP-511A
コンパクトパワーアダプター
CA-PS400
カーバッテリー
ケーブル
CB-570
バッテリー
チャージャー
CG-570
コンパクト
パワーアダプター
CA-570

タイマーリモートコントローラー TC-80N3
リモートスイッチ RS-80N3
ワイヤレスコントローラー LC-5
EFレンズ
EF-Sレンズ
HDMI ケーブル HTC-100
ビデオケーブル
ビデオケーブル VC-100
テレビ／ビデオ
ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E3 (ファームウェアVer. 2.0.0以降)
USB外部メディア
USB GPSユニット
EOS DIGITAL Solution Disk
ソフトウェア使用説明書
インターフェースケーブル IFC-200U
無線LANアクセスポイント
無線LANアダプター
Ethernet端子
インターフェースケーブル IFC-500U
パソコン
USBポート
Windows Vista
Windows XP
Mac OS X
オリジナルデータセキュリティキット OSK-E3
カードリーダー
PCカードスロット
CFカード
PCカードアダプター
PictBridge対応プリンター

主な仕様

■型式

型式……………………… ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体………………… CFカード（タイプI、II準拠、UDMA対応）
撮像画面サイズ………… 22.3×14.9mm
使用レンズ……………… キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを含む）
（有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当）
レンズマウント………… キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式……………………… CMOSセンサー
カメラ部有効画素……… 約1510万画素
アスペクト比…………… 3：2
ダスト除去機能………… 自動/手動/ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット……… DCF2.0
画像タイプ……………… JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEG同時記録可能
記録画素数……………… ラージ　　　：約1510万（4752×3168）画素
ミドル　　　：約800万（3456×2304）画素
スモール　　：約370万（2352×1568）画素
RAW（ロウ）：約1510万（4752×3168）画素
sRAW1　　　：約710万（3267×2178）画素
sRAW2　　　：約380万（2376×1584）画素
フォルダ作成/選択……… 可能

■画像処理

ピクチャースタイル…… スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
ホワイトバランス……… オート、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル、色温度指定（2500-10000K）
ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* 色温度情報通信対応
ノイズ低減……………… 長秒時露光、高感度撮影に対応可能
画像の明るさ自動補正… オートライティングオプティマイザにより対応
高輝度側･階調優先……… 可能
レンズ周辺光量補正…… 可能

■ファインダー

方式....................................ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率................................上下/左右とも約95%
倍率....................................約0.95倍（50mmレンズ・∞・－1m^{-1}）
アイポイント ....約22mm（－1m^{-1}時/接眼レンズ中心から）
視度調整範囲 .... －3.0～＋1.0m^{-1}（dpt）
フォーカシングスクリーン...交換式（別売2種類）、Ef-A標準装備
ミラー................................クイックリターン式
被写界深度確認..................可能

■オートフォーカス

方式....................................TTL二次結像位相差検出方式
測距点................................9点（全点クロス測距）
輝度範囲............................EV－0.5～18（常温・ISO100）
フォーカスモード.............ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
AF補助光 ....内蔵ストロボ間欠発光方式
AF微調整 ....AFマイクロアジャストメントにより対応

■露出制御

測光方式............................35分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約9%）
・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約3.8%）
・中央部重点平均測光
測光範囲............................EV1～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御方式 ....プログラムAE（全自動、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、ストロボ発光禁止、クリエイティブ全自動、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先AE、自動深度優先AE、マニュアル露出
ISO感度 ....かんたん撮影ゾーン：ISO 100～1600自動設定
（推奨露光指数）　応用撮影ゾーン：ISO 100～3200任意設定（1/3段ステップ）、自動設定、およびISO6400、12800の感度拡張が可能
露出補正............................手動、AEB（手動露出補正との併用可能）
補正量：1/3、1/2段ステップ±2段
AEロック ....自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタン押しによる

■シャッター

形式.................................... 電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度................ 1/8000～1/60秒（全自動モード）、X=1/250秒
1/8000～30秒、バルブ（すべての撮影モードを合わせて）

■ストロボ

内蔵ストロボ..................... リトラクタブル式、オートポップアップストロボ
ガイドナンバー 13（ISO 100・m）
焦点距離17mm相当の画角に対応
充電時間約３秒
外部ストロボ..................... EXシリーズスピードライト(カメラ側操作で機能設定可能)
調光方式............................ E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正............ 1/3、1/2段ステップ±２段
FEロック.......................... 可能
シンクロ端子..................... あり

■ドライブ関係

ドライブモード................ １枚撮影、高速連続撮影、低速連続撮影、セルフタイマー
10秒/2秒
連続撮影速度..................... 高速：最高約6.3コマ/秒
低速：最高約３コマ/秒
連続撮影可能枚数............ JPEGラージ/ファイン：約60枚（約90枚）、
(高速連続撮影時) RAW：約16枚（約16枚）
RAW+JPEGラージ/ファイン：約10枚（約10枚）
* 当社試験基準2GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定
* ( ) 内の数値は、当社試験基準Ultra DMA（UDMA）対応2GBカード使用時の枚数

■ライブビュー撮影機能

フォーカス........................ クイックモード（位相差検出方式）
ライブモード、ライブ顔優先モード（コントラスト検出方式）
手動ピント合わせ（5倍/10倍拡大確認可能）
測光方式............................ 撮像素子による評価測光
測光範囲............................ EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
静音撮影............................ 可能

■液晶モニター

形式......................................TFT式カラー液晶モニター（明るさ7段階調整可能）
画面サイズ/ドット数.......3.0型/約92万ドット（VGA）
視野率...................................約100%
メニュー表示言語.............25言語

■再生機能

画像表示形式 ....1枚、1枚＋情報（記録画質、撮影情報、ヒストグラム）、
4枚インデックス、9枚インデックス、画像回転可能
拡大ズーム倍率.................約1.5～10倍
画像表示検索 1枚/10枚/100枚/1画面/撮影日/フォルダ
ハイライト警告.................ハイライト部分点滅表示

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター.................PictBridge対応プリンター
印刷対応画像 ....JPEG画像、RAW画像
印刷指定............................DPOF バージョン1.1準拠

■カスタマイズ機能

カスタム機能 25種
カメラユーザー設定..........モードダイヤルのC1、C2に登録
マイメニュー登録.............可能

■インターフェース

デジタル端子 ....パソコン通信／ダイレクトプリント用（Hi-Speed USB）
映像出力端子 ....φ3.5mmミニジャック（NTSC／PAL切り換え可能）
HDMIミニ出力端子..........タイプC
リモコン端子 N3タイプのリモコンに対応
拡張システム端子.............ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E3接続用

■電源

使用電池............................バッテリーパックBP-511A、1個
* ACアダプターキットACK-E2使用により、AC駆動可能
* バッテリーグリップBG-E2N、BG-E2装着時、単3形電池使用可能
撮影可能枚数の目安..........ストロボ50%使用通常撮影：
（CIPA試験基準による） 常温（23℃）約640枚/低温（0℃）約540枚
ストロボ50%使用ライブビュー撮影：
常温（23℃）約 170枚/低温（0℃）約130枚

■大きさ・質量

大きさ................................ 145.5（幅）×107.8（高さ）×73.5（奥行）mm
質量.................................... 約730g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度..................... 0℃～＋40℃
使用可能湿度..................... 85%以下

■バッテリーパック BP-511A

形式.................................... リチウムイオン電池
公称電圧............................ DC7.4V
容量.................................... 1390mAh
大きさ................................ 38（幅）×21（高さ）×55（奥行）mm
質量.................................... 約82g

■バッテリーチャージャー CG-580

充電可能電池..................... バッテリーパック BP-511A、BP-514、BP-511、BP-512
充電時間............................ 約100分
定格入力............................ AC100～240V（50/60Hz）
定格出力............................ DC8.4V
使用可能温度..................... 0℃～＋40℃
使用可能湿度..................... 85%以下
大きさ................................ 91（幅）×67（高さ）×31（奥行）mm
質量.................................... 約115g

■EF-S18-200mm F3.5-5.6 IS

画角....................................対角線：74°20′～7°50′
水平：64°30′～6°30′
垂直：45°30′～4°20′
構成枚数............................12群16枚
最小絞り............................F22-36
最短撮影距離.....................0.45m（撮像面から）
最大撮影倍率.....................0.24倍（200mm時）
画界....................................452×291mm～93×62mm（0.45m時）
手ブレ補正機能..................レンズシフト式
フィルター径.....................72mm
レンズキャップ..................E-72
最大径×長さ.....................78.6×102mm
質量....................................約595g
対応フード........................EW-78D（別売）
対応ケース........................LP1116（別売）

■EF-S17-85mm F4-5.6 IS USM

画角....................................対角線：78°30′～18°25′
水平：68°40′～15°25′
垂直：48°00′～10°25′
構成枚数............................12群17枚
最小絞り............................F22-32
最短撮影距離.....................0.35m（撮像面から）
最大撮影倍率.....................0.2倍（85mm時）
画界....................................328×219mm～112×75mm（0.35m時）
手ブレ補正機能..................レンズシフト式
フィルター径.....................67mm
レンズキャップ..................E-67U
最大径×長さ.....................78.5×92mm
質量....................................約475g
対応フード........................EW-73B（別売）
対応ケース........................LP1116（別売）

■EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM

画角……対角線：75°～18°
水平：65°～15°
垂直：46°～10°
構成枚数……12群16枚
最小絞り……F22-36
最短撮影距離……0.5m（撮像面から）
最大撮影倍率……0.19倍（135mm時）
画界……551×355mm～188×125mm（0.5m時）
手ブレ補正機能……レンズシフト式
フィルター径……72mm
レンズキャップ……E-72U
最大径×長さ……78.4×96.8mm
質量……約500g
対応フード……EW-78B II（別売）
対応ケース……LP1116（別売）

■EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS

画角……対角線：74°20′～27°50′
水平：64°30′～23°20′
垂直：45°30′～15°40′
構成枚数……9群11枚
最小絞り……F22-36
最短撮影距離……0.25m（撮像面から）
最大撮影倍率……0.34倍（55mm時）
画界……207×134mm～67×45mm（0.25m時）
手ブレ補正機能……レンズシフト式
フィルター径……58mm
レンズキャップ……E-58
最大径×長さ……68.5×70mm
質量……約200g
対応フード……EW-60C（別売）
対応ケース……LP814（別売）

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国および他の国で登録された、米国アップル社の商標、または登録商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

＊ このデジタルカメラは、DCF 2.0とExif 2.21（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいな印刷出力結果を得ることができます。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします。

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と、期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理受付窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

索　引

英数字

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00～20：00
土・日・祝日 10：00～17：00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。
※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2008年8月に作成したものです。それ以降に発売されたアクセサリー、レンズとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CT1 - 5238 - 002

PRINTED IN JAPAN
0000Ni0.0